

# 朝里村防護團

警報班長資料

小樽・朝里の街づくりの会朝里遺産部会

## 朝里叢書第七巻の発刊にあたって

北海道小樽市朝里地区は昭和十五年に小樽市に合併されるまで、旧朝里村として独立した行政区域であった。この郷土・朝里への深き思いにかられて、昭和初期に、記録伝承の湮滅を憂い、古老、先達に故事来歴の聞き取りを行い、膨大な資料を残した先人がおられた。樂堂、小林 廣翁、その人である。資料は現在小樽博物館に保存されている。

平成十二年、小樽・朝里のまちづくりの会は、かの資料を朝里郷土遺産に指定した。同会の朝里遺産部会はこの資料を朝里叢書として逐次刊行することを企画した。

朝里叢書第七巻「朝里防護團」の前半は防護團警報班長であった小林廣の資料である。これらに加えて防空法関係の資料を載せた。防護團は内務省の管轄の下、北海道では道廳が各市町村を指導、編成された。小樽市消防団第十三分団編「創立五十周年記念誌」(一九九〇年九月三十日刊)の沿革欄によれば一九三七年(昭和十二年)七月に朝里村防護團が出来、一九三九

年(昭和十四年)一月二十四日に勅令警防団規則公布、同年四月一日同規則施行、これにより消防組及び防護團は廃止され、朝里村警防団が組織される。初代団長は和田幸次郎氏。朝里村防護團はわずか一年半しか続かなかった。

なお、幾つかの異字体が用いられていたが、印刷の都合上、正字体とした。

平成二十一年 一月

NPO法人 小樽・朝里のまちづくりの会

朝里遺産部会を代表して

末永 通

## 総目次

防護団組織について	4
朝里村防護団警報班長資料	5
朝里防護團々則	8
朝里防護団本部及各班業務細項	12
朝里防護團編成表	21
北部統制管区一般刑法規定	29
燈火管制規定	34
防空團に關する村民の心得	37
昭和十二年度朝里村防空演習実施要領	43
朝里村防護団防空演習警報班服務令	49
昭和十三年度春期防空訓練朝里村実施要領	58
同 朝里分團警報班服務令	70
朝里村防空訓練宣傳ビラ	75
単防空法並防空法施行令逐条説明	83
防空法施行令	97
燈火管制規則	108
付表	112
防空通信案内	12

## 防護団組織について

昭和五年、関東大震災の教訓から東京府と東京市は、警視廳、東京警備司令部、東京憲兵隊と合同で、震災や空襲に対処するための市民の自衛組織「防護団」を設立することとし、「東京非常変災要務規約」を制定し、昭和五年九月一日に施行した。

防護団は、警護班、警報班、防火班など九班からなり、防火班は火災時に消防職員を援助することを目的とした。編成は、区、町村単位とし、区内にあつては東京市長を団長とする連合防護団を編成した。

東京で誕生した防護団は、やがて全国に普及していき、昭和十二年の日華事変勃発を契機に一層高まりを見せ、全国で団員は四百万人を数えるに至った。しかし、防護団は法令に基づくものではなく、市町村長によって任意に設置される団体であり、地方ではほとんど消防組が兼務していた。

こうしたことから昭和十二年防空法制定を機に統一することとなり、内務省は防護団と消防組関係者の調整をはかり、昭和十四年一月二十五日勅令第二十号をもって「警防団令」を公布し、同年四月一日から施行した。

[http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi?ac1=R101&ac2=R10102&ac3=1117&Page=hpd\\_view](http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi?ac1=R101&ac2=R10102&ac3=1117&Page=hpd_view)  
(消防防災博物館より)



# 朝里村防護團

警報班長資料

朝 防 號

昭和十二年十月十三日

朝里村長 津田運吉

関係各位殿

防護團組織ニ關スル協議会開催ニ付出席方依頼ノ件

首題ノ件ニ付十月一日勅令ニヨル防空法施行セラレ候ニ就而当村ニ於テモ早急之ガ組織ノ万全ヲ期ス可ク左記ニヨリ協議会開催ニ付キ万障御繰合セ出席方及御依頼候也

記

十月十五日午後一時ヨリ役場會議室ニ於テ

関係員 (村會議員、区長、副区長、伍長、青年学校長、男女青年團長、愛、國婦会長副会長、火災予防組合会長、衛生組合組長、駅長、医師会、産婆会、錢函新宮商行、文治沢発電所、水源地主任)

昭和十二年十月十五日決議  
昭和十三年五月十一日變更決議

## 朝里村防護團々則

### 第一章 總則

第一條 本團ハ朝里村防護團ト称ス

第二條 大字錢函村及大字朝里村ニ分團ヲ置ク

第三條 本團ハ戰時事變ノ際其ノ被害ヲ豫防輕減シ治安ヲ確保シテ戰爭遂行ニ支障ナカラシムルト共ニ進ンデ軍ノ行動ヲ支援シ廣義國防ヲ全カラシムルヲ以テ目的トス

第四條 本則中ニ防護ト称スルハ戰時事變ノ際主要施設物件ヲ警護シ或ハ敵航空機ノ來襲ニ際シテ行フ必要ナル警報傳達、燈火管制實施ノ補助、防火交通整理、防毒、避難、救護、配給等ノ諸業務ヲ總称ス

第五條 本團ノ防護区域ハ朝里村ノ区域ニ據ル 但シ大字錢函村分團ハ大字張碓村ヲ含ミ大字朝里村分團ハ大字熊碓村ヲ含ム

第六條 本團ノ事務所ハ朝里村役場ニ置ク

第七條 本團ハ古年次在郷軍人分會員、軍友會員、村會議員、各区長及各区役員、青年學校生徒、男女青年團員、愛國、國防婦人會員、衛生組會員、火災予防組合員、道路保護組合員、自警團員、醫師會員、工場協會員、自動車協會員、水難救済會員、漁業組合會員、農會員、農事實行組合員、森

林防火組合員、產婆會員等ノ團體員ヲ以テ組織ス

## 第二章 編成

### 第八條

防護團及分團ノ編成左ノ如シ

#### 本部

警報班 青年團員、青年學校生徒

警護班 軍友會員、古年次在郷軍人會員、青年團員、自警團員

防火班 火災予防組會員、農事実行組會員、漁業組會員、森林防火組會員

交通整理班 道路保護組會員、青年學校生徒

防毒班 医師會員、衛生組會員

避難所 青年團員、愛國、國防婦人會員、女子青年團員

救護班 衛生組會員、產婆會員、女子青年團員

工作班 工場協會員、自警團員

配給班 自動車協會員、青年團員、愛國、國防婦人會員

### 第九條

本部ハ各部部长一名、副部长一名、部員若干名ヲ以テ組織ス

### 第十條

各班ハ班長一名、副班長若干名、係員若干名ヲ以テ組織ス 但シ分團ニハ各班ニ班員二名ヲ置ク

## 第三章 本部及各班ノ任務

第十一條 本部ハ專ラ防護業務ノ計画若ハ訓練ニ関スル事項ヲ掌リ且各班ノ業務ヲ監督ス

第十二條 警報班ハ警報傳達及燈火管制実施ニ関シ関係官公衙ノ指導ニ從ヒ行動スルモノトス

第十三條 警護班ハ治安維持、盜難豫防、要警備施設物件ノ警護等ノ補助ニ任ジ警察署長ノ指揮ニ從ヒ行動スルモノトス

第十四條 防火班ハ火災ノ防止ニ関シ消防組ノ援助ニ任シ警察署長ノ指揮ニ從ヒ行動スルモノトス

第十五條 交通整理班ハ交通整理ニ関シ警察官憲ヲ補助シ災害發生ノ際ニ於ケル避難者ノ誘導ニ任スルモノトス

第十六條 防毒班ハ毒瓦斯ノ防毒指導竝ニ消毒作業ニ任スルモノトス

第十七條 避難所管理班ハ避難所ヲ設備シ避難者ノ出入秩序維持休宿及給食ニ任スルモノトス

第十八條 工作班ハ建設物ノ補強作業應急補修偽裝、遮蔽等ニ任スルモノトス

第十九條 救護班ハ傷病者ノ救護及死者ノ收容ニ任スルモノトス

第二十條 配給班ハ諸物資ノ管理及配給ニ任スルモノトス

第二十一條 本部及各班係ノ業務ノ細則ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

#### 第四章 役員

第二十二條 本團ニ左ノ役員ヲ置ク

一、團長 一名

二、副團長 一名

三、分團長 二名

四、副分團長 四名

五、班長及副班長並ニ係員若干名

六、顧問 若干名

第二十三條 團長ハ村長ノ職ニアルモノヲ以テ之ニ充テ團務ヲ統轄ス

第二十四條 副團長ハ團長之ヲ依嘱シ團長ヲ補佐シ團長事故アル時ハ之ヲ代理ス

第二十五條 分團長ハ團長之ヲ依嘱シ其ノ旨ヲ承ケ分團ヲ指揮統制ス

第二十六條 副分團長ハ團長之ヲ依嘱シ分團長事故アル時ハ之ヲ代理ス

第二十七條 班長以下ハ團長之ヲ依嘱シ其ノ旨ヲ承ケ團務ニ從事ス 分團ニ於ケル班長以下ハ分團長ノ推薦

ニ依リ團長之ヲ依嘱シ分團長ノ旨ヲ承ケ團務ニ從事ス

第二十八條 團長以外ノ役員ノ任期ハ二箇年トス 但シ重任ヲ妨ゲズ

第二十九條 顧問ハ團長之ヲ推薦ス

## 第五章 召集並ニ出動

第三十條 戰時又ハ事変ニ際シ緊急ノ要アリト認メタル時團長ハ即時團員ニ對シ召集及出動ヲ命ス

第三十一條 團員防護事務ニ從事スルニ当リテハ出先軍隊、警察、消防、憲兵、其他關係官公衙ノ指揮又ハ指導ニ基キ行動スルモノトス

第三十二條 本團員訓練並ニ防護ニ從事スルトキハ其所屬團體ノ團服ヲ着用スヘシ 但シ活動ニ便ナル服裝ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十三條 本團員ハ其ノ出動ノ際シテハ其ノ法ノ禁止スル銃器爆發物又ハ武器ヲ仕込ミタル物件ヲ携行セ

サルモノトス

## 第六章 役員會議

第三十四條 防護團長及防護分團長ハ必要ニ應シ役員會議ヲ開キ左記各項ニ付キ審議研究ヲ為スモノトス

一、防護團及防護分團ノ組織編成ニ關スル事項

二、防護計画ニ基ク防護團各班ノ行動ニ關スル事項

三、防護團員ノ表彰ニ關スル事項

四、其ノ他必要ト認ムル事項

第三十五條 本團ノ經費ハ補助金寄附金其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

## 朝里村防護團本部及各班業務細項

一、警報部 團長ノ命ヲ承ケ警報ノ発信及分團警報班ノ指導連絡ニ任ス

二、警護部 團長ノ命ヲ承ケ警察官憲トノ連絡分團防火班ノ指導並連絡ニ任ス

三、防火部 團長ノ命ヲ承ケ消防官憲トノ連絡分團防火班ノ指導並連絡ニ任ス

四、交通整理部 團長ノ命ヲ承ケ警察官憲トノ連絡分團交通整理班ノ指導連絡ニ任ス

五、防毒部 團長ノ命ヲ承ケ分團防毒班ノ連絡指導ニ任ス

六、避難所管理部 團長ノ命ヲ承ケ分團避難所管理班ノ指導連絡ニ任ス

七、救護部 團長ノ命ヲ承ケ分團救護班ヲ統制シ機宜ノ處置ヲナス

八、 工作部

團長ノ命ヲ關係官公衛會社トノ連絡竝分團工作班ノ指導連絡ニ任ス

九、 配給部

團長ノ命ヲ承ケ配給ヲ統制シ分團配給班ノ指導連絡ニ任ス

十、 警報班

一、 本部

分團長ノ許ニアリテ燈火管制班ト密接ナル連絡ヲ執リ警報ノ傳達ニ任ス

二、 警報係

警戒警報空襲警報ノ受領傳達ニ任ス

三、 情報係

情報ノ蒐集竝ニ情報ノ通報報告ニ任ス

四、 燈火管制係

燈火管制ノ命令及指導竝ニ其ノ徹底ヲ期ス

十一、 警護班

一、 本部

分團長ノ命ヲ承ケ關係官憲ト密ニ連繫シ管轄内治安維持要警護物件ノ警護ニ任ス

二、 歩哨係

要警護物件ノ直接警護ニ任ス

三、 巡察係

管轄内ヲ巡察シ治安維持火災盜難予防本部歩哨係間ノ連絡ニ任ス

十二、 防火班

一、 防火係

発火前一部ヲ以テ警戒係ヲ補助セシムヘキモ大部ハ機ヲ失セス消防ニ任シ得ル如

ク待機シ出火ト同時直ニ手腕水管車其他器材ヲ用ヒ消防作業ニ從事ス

二、 警戒係

擔任區域ヲ巡察シ防火及應急消火ニ関シ市民ノ指導ニ任シ且火氣ノ警戒ニ當ルト

共ニ発火時直詰所及消防隊ニ通報シ防火係ニ合流ス

十三、 交通整理班

一、 本部

分團長ノ命ヲ承ケ各整理係ノ指揮統制及外部トノ連絡ニ任ス

二、 整理係

地區内道路ノ交叉点又ハ要点ニ於テ交通整理ヲ援助ス

十四、 防毒班



一、本部

分團長ノ命ヲ承ケ關係各班トノ連絡全般ノ指揮  
防毒資材ノ整備補給検査氣象觀測警戒係ノ指揮命令

二、警戒係

瓦斯搜索警戒 瓦斯警報 瓦斯檢知 瓦斯表示

三、消毒係

瓦斯消毒

十五、避難所管理班

一、管理係

1、避難所毎ニ一組ヲ配置ス

2、管理係員 係長ノ指揮ニ依リ左ノ任務ヲ擔任ス

外部 出入者ノ取締 防毒處置 收容人員ノ制限

中部 入所者及隔障間ノ消毒除毒

内部 所内ノ取締 休宿 給養

十六、救護班

一、本部

分團長ノ命ヲ承ケ各係ノ指揮統制 各部トノ連絡及救護所ノ管理ニ任ス

二、救急係

患者ヲ救出シ應急ノ處置ヲ講シタル後收容係ニ引渡ス

三 收容係

患者ノ收容ニ任シ救急係ト連絡シ患者ヲ擔送護送車送等ニ依リ救護所ニ收容ス

十七 工作班

偽裝係以外ノ各係ハ被害ノ程度輕微ナルモノニ對シ應急措置ヲ講スル外直ニ關係官公衙會社ニ急報シ各本務者ノ派遣ヲ講セシムルモノトス

十八 配給班

一、分團長ノ名ヲ承ケ各係ノ指揮統制及本團トノ連絡ニ任ス

二、配給係 物資ノ配給ニ任ス

三、管理係 物資ノ管理出納及所要防毒防火ニ認ス

四、食糧ノ炊事ニ任ス

計 三 一	顧 問	會 計		庶 務			副 分 團 長	分 團 長	副 團 長	團 長	職 名	防 護 團 本 部 及 分 團 編 成 表
	若 干 名	一		二			三	一	一	一	員 數	
	村各 會 議 長 員	收 入 役	兵 事 係	兵 事 主 任	新 宮 商 行	錢 函 局 長	張 碓 区 長	新 宮 商 行	上 席 書 記	村 長	所 屬	
	駐 在 所 巡 査	森 益 太 郎	山 本 秀 雄	遠 田 辰 藏	滝 川	齊 藤 與 太 郎	山 崎 吉 太 郎	山 本 新	仁 科 代 助	津 田 運 吉	氏 名	
顧 問 実 際 ヲ 除 キ 九 名											適 要	

本分外  
部員  
二百  
十七  
名

計  
三  
五  
五  
名

計 二 七	配 給 部	工 作 部	管 理 部	避 難 所	救 護 部	防 毒 部	整 理 部	交 通 部	警 火 部	警 護 部	警 報 部
	三	三	二		三	三	三		三	三	三
	収 入 役	兵 事 係	兵 事 主 任		新 宮 商 行	錢 函 局 長	張 碓 区 長		新 宮 商 行	上 席 書 記	村 長
	森 益 太 郎	山 本 秀 雄	遠 田 辰 藏		滝 川	齊 藤 與 太 郎	山 崎 吉 太 郎		山 本 新	仁 科 代 助	津 田 運 吉
兼 務 実 務 ヲ 除 八 名 員 際 除 員 数 八 名 除 員 数											

朝里／熊碓／文治沢		防衛團編成二要スル各村出場團員表	
班別	朝里村	熊碓村	文治沢
警報班	十二名	十一名	七名
青年團	和 田 悟 大 平 造 太 田 勇平 小 林 作造	小 林 廣 德 光 拓 永 山 友作 本 間 富雄	本 部 一 名 警 係 長 一 名 情 報 * 一 名 燈 長 一 名 燈 係 一 名
青年學校	牧 田 武 小 林 裕芳 小 林 裕芳	渡 辺 厚藏 上 林 哲夫	
警護班	四 名	五 名	四 名
軍友會	龜 田 毅 村 山 庄作	筒 井 栄作 松 浦 晴四郎	
防火班	五 名	四 名	四 名
火災予防組合	村 山 徳治郎 鷺 田 仁司	木 村 栄藏 山 口 栄作 徳 光 朔治郎	
森林予防組合	鷺 田 仁司	徳 光 朔治郎	
交通整理班	五 名	三 名	
青年學校	松 永 安太郎 播 摩 與 佐 早 坂 猛 中 田 キミ子	久 家 寿雄 後 藤 多三郎 瀬 川 倉次郎 原 田 亀次郎 徳 光 昇造	四 名 三 名 三 名
避難所管理班	四 名	三 名	
愛婦青年團	中 田 キミ子	徳 光 昇造	
愛婦國婦	四 名	五 名	四 名
救護班	小 沢 勇 林 シゲエ	徳 光 富太郎 福 士 美知	
衛生組合	十 名	九 名	八 名
鷺 田 一郎 小 林 慶治郎 井 原 キノ 松 永 セノ 横 川 フサノ	山 口 悦郎 附 家 六郎 附 家 タカ 佐 藤 チマ 山 口 ミツ		
配給班	十 名	九 名	八 名
青年團			
愛婦國婦			
計	四 四	四 四	三 九
合計		一二七名	

錢函分團			防護團編成二要スル各村工場出場團員表		
班別	錢函村	工場	張碓村		
警報班	二十三名	六名	十二名		
青年團	本村 八	本村	本村		
青年學校	星置 五	星置	和宇尻		
警護班	十二名	三名	六名		
青年團	本村 六	本村	本村		
軍友會	星置 二	星置	和宇尻		
防火班	三十二名	八名	十名		
火災予防組合	本村 十七	本村	張碓		
	星置 五	星置	和宇尻		
交通整理班	本村 四名				
青年學校					
青年團					
防毒班	十一名	三名	五名		
醫師會員	本村 五	本村	本村		
衛生組合	星置 二	星置	和宇尻		
避難所管理班	七名	一名	四名		
青年團	本村 四	本村	本村		
愛國婦人會	星置 一	星置	和宇尻		
救護班	十一名	二名	六名		
衛生組合	本村 五	本村	本村		
女子青年團	星置 二	星置	和宇尻		
產婆會員					
工作班		十二名			
配給班	二十一名	二名	十名		
自動車協會	本村 九	本村	本村		
青年團	星置 四	星置	和宇尻		
愛國國防					
婦人會					
計	一二二	三七	五三		

朝 防 號      至 急

昭和十二年十月十八日

朝里村防護團長    津田運吉

各班先任者、各役員殿

緊急會議開催ノ件通知

先般御通報方御依頼ノ出場團員本日未夕通報無之而モ有之候処予定ノ通明十九日午後一時ヨリ各班ノ任務ノ分担及細項ニ付キ打合セ致度御多忙中ノ処万障繰合セ御出席相成度  
出場團員未決定ノ部ハ予想各班ノ先任者出席方御取計相成度

朝里村防護團本部及分團竝各班業務細項

- 一、 警報部      團長ノ命ヲ承ケ警報ノ発信及分團警報班ノ指導連絡ニ任ス
- 二、 警護部      團長ノ命ヲ承ケ警察官憲トノ連絡分團警護班ノ指導竝連絡ニ任ス
- 三、 防火部      團長ノ命ヲ承ケ消防官憲トノ連絡分團防火班ノ指導竝連絡ニ任ス
- 四、 交通整理部      團長ノ命ヲ承ケ警察官憲トノ連絡分團交通整理班ノ指導連絡ニ任ス
- 五、 避難所管理部      團長ノ命ヲ承ケ分團避難所管理班ノ指導連絡ニ任ス
- 六、 防毒部      團長ノ命ヲ承ケ分團防毒班ノ連絡指導ニ任ス
- 七、 救護部      團長ノ命ヲ承ケ分團救護班ヲ統制シ機宜ノ處置ヲナス

八、 工作部

團長ノ命ヲ關係官公衙會社トノ連絡並分團工作班ノ指導連絡ニ任ス

九、 配給部

團長ノ命ヲ承ケ配給ヲ統制シ分團配給班ノ指導連絡ニ任ス

十、 警報班

一、 本部

團長及分團長ノ指定ノ許ニアリテ燈火管制班ト密接ナル連絡ヲ執リ警報ノ傳達ニ任ス

二、 警報係

警戒警報空襲警報ノ受領傳達ニ任ス

三、 情報係

情報ノ蒐集並ニ情報ノ通報報告ニ任ス

四、 燈火管制係

燈火管制ノ命令及指導並ニ其ノ徹底ヲ期ス

十一、 警護班

一、 本部

團長及分團長ノ命ヲ承ケ關係官憲ト密ニ連繫シ管轄内治安維持要警護物件ノ警護ニ任ス

二、 歩哨係

要警護物件ノ直接警護ニ任ス

三、 巡察係

管轄内ヲ巡察シ治安維持火災盜難予防本部歩哨係間ノ連絡ニ任ス

十二、 防火班

一、 本部

公設消防トノ連絡各係ノ指導統制並連絡ニ任ス

二、 防火係

発火前一部ヲ以テ警戒係ヲ補助セシムヘキモ大部ハ機ヲ失セス消防ニ任シ得ル如ク待機シ出火ト同時直ニ手腕水管車其他器材ヲ用ヒ消火作業ニ從事ス

三、 警戒係

擔任區域ヲ巡察シ防火及應急消火ニ関シ市民ノ指導ニ任シ且火氣ノ警戒ニ當ルト共ニ発火時直ニ班本部及消防隊ニ通報シ防火係ニ合流ス

十三、 交通整理班

## 十四

## 防毒班

- 一、本部 團長及分團長ノ命ヲ承ケ各整理係ノ指揮統制及外部トノ連絡ニ任ス
- 二、整理係 地區内道路ノ交叉点又ハ要点ニ於テ交通整理ヲ援助ス

## 一 本部

團長及分團長ノ命ヲ承ケ關係各班トノ連絡全般ノ指揮 防毒資材ノ整備補給検査氣象觀測警戒係ノ指揮命令

## 二、警戒係

瓦斯搜索警戒 瓦斯警報 瓦斯檢知 瓦斯標示

## 三、消毒係

瓦斯消毒

## 十五

## 避難所管理班

## 一、管理係

- 1、避難所毎ニ一組ヲ配置ス
- 2、管理係員 係長ノ指揮ニ依リ左ノ任務ヲ擔任ス

外部 出入者ノ取締 防毒處置 收容人員ノ制限

中部 入所者及隔離間ノ消毒除毒

内部 所内ノ取締 休宿 給養

## 十六

## 救護班

## 一、本部

團長及分團長ノ命ヲ承ケ各係ノ指揮統制 各部トノ連絡及救護所ノ管理ニ任ス

## 二、救急係

患者ヲ救出シ應急ノ處置ヲ講シタル後收容係ニ引渡ス

## 三、收容係

患者ノ收容ニ任シ救急係ト連絡シ患者ヲ擔送護送車送等ニ依リ救護所ニ收容ス

## 十七

## 工作班

偽裝係以外ノ各係ハ被害ノ程度輕微ナルモノニ對シ應急措置ヲ講スル外直ニ關係官公衙會社ニ急報シ各本務者ノ派遣ヲ講セシムルモノトス

## 十八

## 配給班



- 一、本部 團長及分團長ノ命ヲ承ケ各係ノ指揮統制及本團トノ連絡ニ任ス
- 二、配給係 物資ノ配給ニ任ス
- 三、管理係 物資ノ管理出納及所要ノ防毒防火ニ任ス
- 四、炊事係 食糧ノ炊事ニ任ス

### 朝里村防護團編成表

團長	津田運吉	副部長	赤塚秀夫
副團長	仁科代助	部員	志賀幸雄
本部庶務	遠田辰藏	避難所管理部	工作部
同係	山本秀雄	部長	鎌田京藏
會計	森益太郎	副部長	佐々木文雄
顧問	各駅長	部員	山本秀雄
	駐在所巡查		
	村會議員		
警報部	警護部	防火部	錢函分團編成表
部長	谷村己作		
副部長	清水兵藏	分團長	山本 新
部員	新谷久作	副分團長	齊藤與太郎
交通整理部	防毒部	同	山崎吉太郎
部長	救護部	同	滝川貞藏
	吉田求馬		

通交 班理整	班火防	班護警	班報警	班別
村上茂雄 熊	洪谷善太郎 渡辺運次郎 副村長 木村榮藏 朝	岡井久富 筒井榮作 副木下長 木下豐太郎 熊	藤平定一 副內田五郎 小長林廣 朝	班長 副班長
理交 係通整	警 戒 係	防 火 係	情 報 係	警 報 係
	鷺田仁司 村山徳次郎 徳光朔次郎 山口榮作	村山庄作 龜田毅四郎	長 小牧林武造 徳光裕芳 鷺田政樹	長 上本間富雄 永山哲夫 小山林友作
上大野 島健吉 富次	土屋勝伊 永井佐代吉 吹田富藏	吉岡長松 阿部勝男 土谷久次郎	長 村井龜七郎 富山芳雄 増田熙 村田安則 内田八郎 齊藤忠良	長 石塚武雄 鶴谷秀次郎 小蕎英一 加藤東一 佐藤久俊
	齊藤勘次 畠中喜作 畠山權太	渋谷誠吉 水間忠吉 加藤鶴松	長 石沢幸太郎 長 芳雄	長 福村要吉 高野信一
二	四	三	三	三
三	一 三	一 三	三 二	計

計	班 給 配				班 作 工		班 護 救		所 難 避		班 毒 防	
									班理 管			
二 二	班長 山口悦郎 副班長 藤田鶴松 副班長 佐藤米松 副班長 渡辺治三郎 副班長 徳光富太郎 副班長 山田正雄 副班長 加藤幸作 副班長 原田亀次郎 副班長 森永喜太郎 副班長 松永安太郎 副班長 新野榮治 副班長 班長 熊朝				副班長 佐藤米松 副班長 渡辺治三郎 副班長 徳光富太郎 副班長 山田正雄 副班長 加藤幸作 副班長 原田亀次郎 副班長 森永喜太郎 副班長 松永安太郎 副班長 新野榮治 副班長 班長 熊朝		副班長 佐藤米松 副班長 渡辺治三郎 副班長 徳光富太郎 副班長 山田正雄 副班長 加藤幸作 副班長 原田亀次郎 副班長 森永喜太郎 副班長 松永安太郎 副班長 新野榮治 副班長 班長 熊朝		副班長 佐藤米松 副班長 渡辺治三郎 副班長 徳光富太郎 副班長 山田正雄 副班長 加藤幸作 副班長 原田亀次郎 副班長 森永喜太郎 副班長 松永安太郎 副班長 新野榮治 副班長 班長 熊朝		副班長 佐藤米松 副班長 渡辺治三郎 副班長 徳光富太郎 副班長 山田正雄 副班長 加藤幸作 副班長 原田亀次郎 副班長 森永喜太郎 副班長 松永安太郎 副班長 新野榮治 副班長 班長 熊朝	
	炊事係 管理係 配給係 本部				炊事係 管理係 配給係 本部		炊事係 管理係 配給係 本部		炊事係 管理係 配給係 本部		炊事係 管理係 配給係 本部	
三 七	井原キノ 小林慶治 横川一太郎 附家ミツ 山田ミツ 松永セマ 佐藤チマ 附家六郎				井原キノ 小林慶治 横川一太郎 附家ミツ 山田ミツ 松永セマ 佐藤チマ 附家六郎		井原キノ 小林慶治 横川一太郎 附家ミツ 山田ミツ 松永セマ 佐藤チマ 附家六郎		井原キノ 小林慶治 横川一太郎 附家ミツ 山田ミツ 松永セマ 佐藤チマ 附家六郎		井原キノ 小林慶治 横川一太郎 附家ミツ 山田ミツ 松永セマ 佐藤チマ 附家六郎	
	佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男				佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男		佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男		佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男		佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男	
四 〇	佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男				佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男		佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男		佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男		佐々木六太郎 富山澄子 中島キヨケ 阿部シケ 中谷百合 日登静江 吹田照男	
	三上ミヨ 齊藤スミ 熊谷リヨ 岡本トサメ 奥井ヒサ 蔭川タケイ 富山昇 発電所 水源地				三上ミヨ 齊藤スミ 熊谷リヨ 岡本トサメ 奥井ヒサ 蔭川タケイ 富山昇 発電所 水源地		三上ミヨ 齊藤スミ 熊谷リヨ 岡本トサメ 奥井ヒサ 蔭川タケイ 富山昇 発電所 水源地		三上ミヨ 齊藤スミ 熊谷リヨ 岡本トサメ 奥井ヒサ 蔭川タケイ 富山昇 発電所 水源地		三上ミヨ 齊藤スミ 熊谷リヨ 岡本トサメ 奥井ヒサ 蔭川タケイ 富山昇 発電所 水源地	
三 三	一四				一四		一四		一四		一四	
三 三	一四				一四		一四		一四		一四	
一 三 二	二七				二七		二七		二七		二七	

班 火 防				班 護 警				班 報 警				班別																																				
村副 藤班 岡班 村長 三長 榮 郎 作				木副 井班 村班 口長 要長 利 三 覚				加松副今班 我本班野長 正忠長正 巳助 雄				班長 副班長																																				
警 戒 係	防 火 係			本 部	巡 察 係	步 哨 係	本 部	制 灯 係	火 管	情 報 係	警 報 係	本 部	係別																																			
小深田岡高櫻郷猿宮深加中奈渡子岸笹林宮川新京佐藤野奈神岸松 中瀧中村橋井田田下野我村良辺出田尾崎端新田谷藤井口良力田本 儀正万憲三勝正三彝良勝藏覺々政龍米豐龜幸勝久喜代秀鶴正靜 平信七一拓代清見之喜房平藏作郎五三郎重五見雄実武勝吉也男 太	治			造									錢函本村																																			
													工場																																			
山藤 内田 三末 次吉	向角田 田村 平福五 一治三 郎次			畠 中 初 雄			西 辻 吉 晴			高 橋 義 晴			山 口 榮 吉	本 間 春 雄	大 能 正 治 郎	原 田 亮 一 郎	星置																															
北早 川坂 喜春 代藏 司	泰畔畔 木木 乙幸常 五藏次 郎郎			畔 木 彦 藏			神 田 寅 男			佐種 藤市 長眞 光之 助			黒 川 四 郎			笹 原 秀 人	田 川 豐 一	谷地																														
山藤 田川 英竹 吉治	中 小 遠 川 田 藤 孔 光 長 益 夫 治			吉 田 友 太 郎			藤 川 信 次			井 山 川 田 勝 吉 雄 三 郎			砂 田 弘			菊 地 健 一 雄	藤 野 龜 雄	十 万 坪																														
福福福高 原原永橋 春定徳石 治五太太 郎郎郎	林松松浪 倉倉花 嘉菊松國 之五雄治 丞郎			中島 貞 吉			酒井 喜 代 治			筒井 常 太 郎			武田 善 次 郎			新井 喜 榮 郎			三浦 金 作			工藤 静 夫			伊藤 義 幸			柴田 義 夫			角田 賢 一 郎			小林 安 太 郎			小森 雄 吉			川嶋 武 利 吉			吉盛 謙 弘			張碓		
一 三	二 五			二			七			七			三			一 四			六			一 二			二			係人員																				
四 二				一 九				三 七				計																																				

計	班 給 配				班 作 工	班 護 救	所 難 避		通 交		班 毒 防					
	新 副 藤 班 田 班 井 長 弥 長 龍 作 藏						班 長  新 副 大 班 田 川 長 福 静 一 三 郎	班 理 管  上 副 木 班 杉 班 村 長 源 長 慶 一 藏		班 理 整  高 副 江 班 橋 班 ノ 長 長 口 榮 実 吉		伊 副 工 班 藤 班 藤 長 三 長 松 五 藏 郎				
一七		炊 事 係	管 理 係	配 給 係	本 部			収 容 係	救 急 係	本 部	管 理 係	本 部	整 理 係	本 部	消 毒 係	警 戒 係
	藤 畠 小 宇 宮 佐 林 川 笹 長 村 中 坂 郷 城 川 口 尾 南 ス 綾 ト タ 義 キ 憲 ミ ヤ 繁						万 佐 伊 喜 德 藤 藤 屋 要 ふ ハ 本 五 み ナ 信 郎 郎 吉			松 笹 大 本 尾 塚 キ た 广 ヨ ツ 信		工 相 張 北 寺 藤 沢 医 辰 沢 定 清 師 病 豊 夫 夫 院 司 出		畠 中 森 祥 三 力 松		
二一		輕 部 為 吉	宮 城 榮	輕 部 小 三 郎	新 國 千 代 美		水 口 嘉 一	山 本 武 雄		梅 津 吉 郎				小 田 市 太 郎	田 村 要 藏	
二一		高 橋 ナ ツ エ	川 本 ミ ツ エ	向 平 ナ ミ	田 川 ユ キ	発 電 所	水 源 地	新 田 ユ キ	畔 木 ウ メ		畔 木 キ ミ			川 本 一 実	佐 藤 長 治 郎	
二一		清 水 晴 雄	吉 田 ミ ツ エ	久 保 岩 松	清 水 フ ミ			後 藤 雪 雄	田 村 ス エ		橋 詰 キ ヨ			青 山 鉄 雄	河 原 仙 次	
四九	斎 松 新 中 角 野 川 土 小 藤 山 田 島 田 坂 村 田 林 タ ミ ウ サ ミ カ ヒ ク 幸 ミ ツ メ ヨ サ ヲ デ ニ 作							小 村 山 新 松 林 岡 本 田 倉 慶 春 シ テ 松 子 子 ゲ イ 三			柴 加 森 川 田 藤 山 村 キ 鶴 コ 利 ヨ 藏 ト 作			赤 笹 秋 林 石 原 山 佐 万 由 藤 太 太 藏 太 郎 郎 郎		
		一 五		七	七 二			六	七 二		四 六		一 一		六 六 二	
一八二	三 三						一 七		一 二				四	一 六		

朝 防 號

昭和十二年十月十九日

朝里村防護團長 津田運吉

團員各位 殿

囑託茲ニ結成式舉行ノ件通知

貴殿ヲ別紙ノ通り朝里村防護團員ニ囑託致候ニ付キ御受諾相成度候  
尚 左記ニヨリ結成式舉行候條必ス出場相成度

一 日時 昭和十二年十月二十一日 午後一時半

二 場所 朝里村小學校校庭

三 服裝 各所屬團体制服 卷脚絆

服制ナキ部ハ活動ニ便ナル服裝

辞令

小林 廣 殿

本團警報班々長ニ囑託ス

昭和十二年十月十九日

朝里村防護團長

津田運吉

(朝里村防護団 結成式で)

決議

- 一 万邦無比ノ我カ國体ノ本義ヲ闡明シ日本精神ヲ益々昂揚スル事
- 二 各自ノ職責ヲ尊重シ官民一体各々連結ヲ協調スルコト
- 三 総テ熱意ト真剣味ヲ以テアルユル難関ヲ突破シ國土防衛ノ完璧ヲ圖ルコト

宣言

以上

我等ハ時局ノ重大性ニ鑑ミ茲ニ舉村防護團ヲ結成シ其ノ目的ノ達成ニ努力シ以テ空襲防護ノ完璧ヲ期セムコトヲ右宣言ス

朝 空 防 號

昭和十二年十一月二十七日

朝里村防護團長 津田運吉

官公衙、學校長

朝里村防護團員 殿

錢函防空監視哨員

防空演習打合せ會開催ノ件通知

来ル十二月六日、七日小樽地区（小樽市、小樽港灣、高島町）防空演習実施セラレ候処、之ニ対スル打合せ會左記ニヨリ開催致度万障繰合セ御出席相成度

記

十二月一日午後一時ヨリ本團關係（朝里、熊碓、文治沢）役場ニ於テ  
十二月二日午後一時ヨリ錢函分團（錢函、張碓、新宮商行）錢函校ニ於テ  
追而実施要領当日配布ス



## 北部防衛統制管區一般警報規定

第一條 本規定ハ北部防衛統制管區一般官民ニ対スル警報ニ関スル事項ヲ規定ス

第二條 警報ハ之ヲ空襲ニ対スル警報（防空警報）及防護ノ爲ノ警報（防護警報）ニ大別ス

第三條 北部防空統制管区内防空警報ノ傳達系統附表第一ノ如シ（附表省略）

第四條 防空警報ノ種別意義信号等ヲ定ムルコト附表第二ノ如シ

第五條 防空警報ヲ電話又ハ口頭ヲ以テ傳達スルニハ「中部地区」（全地区）空襲（警戒）「警報」或ハ「北部地区」（東部地区）空襲警報（警戒）解除ナル語ヲ以テス

而シテ空襲警報解除セラレタルトキハ警戒警報ノ態勢復スルモノニシテ夜間ニアリテハ特ニ「今日リ警戒管制」ナル語ヲ附加スルモノトス

第六條 前條地区トハ警報傳達竝ニ燈火管制実施ノ爲設定セル地区ノ謂ニシテ北部防衛統制管区内地区ノ区分左ノ如シ

北部地区 宗谷、留萌、上川各支廳及空知支廳ノ各行政区域

東部地区 網走、十勝、釧路國及根室支廳行政区域

中部地区 雨龍郡ヲ除キタル空知支廳、石狩、日高、膽振及後志各支廳行政区域

津軽地区 函館市、渡島及檜山支廳ノ各行政区域 青森縣下北福浦村、大奥村及佐井村 東津軽郡

三村、今別村及一本木村 北津軽郡小泊村

樺太地区 樺太廳行政区域

右ノ外若干名ノ特定地区ヲ設ケルコトアリ此場合北部防衛司令官臨機之ヲ指示ス

第七條 北部防衛統制管区内防空警報傳達責任者竝ニ之カ実施ノ監督区分左ノ如シ

1 北海道廳長官

イ 所管警察電話ヲ以テ全端末通信所ニ警報ヲ傳達シ關係市町村長等ノ警報受領者ニ傳達セシム  
ルト共ニ管内市町村ノ警報受領並其ノ傳達ヲ監督ス

ロ 特ニ加入電話ニ依リ警報ヲ受領セシムル要アル者（特別警報受領者）ニ付キ札幌遞信局長ト協議ス

2 札幌遞信局長

イ 所管電信電話ヲ以テ發令地区分ニ應シ管内全郵便電信電話局ニ警報ヲ傳達シ之ヲ關係市町村ノ警報受領者ニ傳達セシム

ロ 必要ト認ムル電氣事業者等ヲ特別警報受領者ト為シ其他ノ特別警報受領者ニ就キ北海道廳長官札幌鐵道局長燈台局長ト協議ノ上其ノ加入電話ヲ以テ之ニ警報傳達セシム

ハ 關係放送局並ニ無線電信局ヲシテ別ニ定ムル所ニ從ヒ警報ヲ放送セシメ且之ヲ監督ニ任ス  
ニ 船舶ニ對シ函館稅關長其ノ他關係當局ト協議シ無線電信其ノ他ノ方法ニ依ル警報ヲ傳達セシム

3 札幌鐵道局長

イ 所管通信網ヲ以テ局内ニ警報ヲ傳達スルト共ニ停車場等ニ關係市町村ヨリ警報受領者ノ差出アル場合ニ於テハ之ニ對シ警報ヲ傳達セシム

4 樺太廳長官

本條前各号ニ準ス

5 市町村長

本條前各號ノ端末等ヨリ警報受領シ之ヲ市町村内一般住民會社工場等ニ傳達スルノ責ニ任ス

6 其ノ他

本條各號ニ記述セサル各省所屬官廳ノ長ハ夫々部下ヲシテ前各号ノ警報ヲ受領スルノ處置ヲ講セシメ且之ヲ監督スルノ責ニ任スルモノトス之カ爲部下ニ特別警報受領者ヲ定ムルノ要アル場合ニ於テハ直接遞信局長等ト協議スルモノトス

第八條

一般ニ有線電信電話ノ端末等ヨリ信号ニ依リ警報ヲ受領シ得サル部分ニ對シテハ必ラス「ラヂオ」ニ依ル受信ヲ行ハシメ又有線ニ依リ警報ヲ受領シ得サル部分ニ於キ重要ナルモノハ「ラヂオ」副受信法ヲ準備セシムルモノトス

第九條

「ラヂオ」ニ依リ空襲警報同解除ヲ傳達スルニハ第五條ノ要領ニ依リ數回反覆シ要スレバ必要事項ヲ追加放送スルモノトス

第十條

警報受領者ノ防空警報ノ發令ニ在リテハ受領ノ最モ迅速ナルモノヲ以テ又同解除ノ場合ハ所定ノ系統ニ依ル受領ヲ以テ直ニ其ノ警報ノ命スル態勢ヲ移ルモノトス

第十一條

防護警報ハ局地住民ニ對シ火災ノ發生又ハ瓦斯攻撃ヲ受ケタルコトヲ告知シ之ニ依リ防護ヲ実施セシムルモノトス

第十二條

防護警報ハ左ノ通り実施スルモノトス

1 瓦斯ニ對スルモノ（瓦斯警報）ハ空襲警報ト混淆ヲ避クル爲通常太鼓、拍子木、空罐等ヲ使用シ有毒地域ハ旗、燈火等ヲ以テ標示スルモノトス

2 火災ニ對スルモノハ（火災警報）ハ地方在來ノ報知方ニ依リ通常特別警報ヲ規定セサルモノトス

第十三條

防護警報ノ關係警察消防官憲防護團長ト協議シテ之ヲ規定シ警察及消防署長防護團長同分團長警報班長防毒班長或ハ防毒班ヨリ分置セラレタル瓦斯哨長以上ノ者之ヲ發スルモノトス

第十四條 防護警報ノ解除ハ通常防護区域（地方）毎ニ警察及消防署長又ハ防護團長同分團長ノ決定ニ基キ警

報班之ヲ傳達スルモノトス

第十五條 警戒警報発令中空襲ニ対スル警報及防護警報類似ノ音響ハ一切之ヲ使用ヲ禁ス

防 附  
空 表 第 二  
警 報 ノ 種 類 信 號 一 覧 表

解 警 警 除 報 戒	解 警 非 空 除 報 常 襲	警 非 空 報 常 襲	警 警 報 戒	種 別
モ 時 発 敵 ノ ニ ス ル 機 ト 警 戒 モ ノ 襲 ス 管 制 ノ 顧 解 除 テ 慮 全 ヲ 命 夜 間 消 セ ア シ タ ル ラ リ テ ハ ト レ タ 同 キ	移 時 発 敵 ヲ ニ ス ル 機 セ 命 非 常 襲 ラ セ ラ ノ 襲 レ タ ノ 危 險 タ ヲ 解 テ ナ モ 除 夜 間 キ ト 警 戒 ア リ ス 管 制 テ ル 二 転 ハ ト キ	非 シ ル 敵 常 テ 危 機 管 夜 險 ノ 制 間 ニ 襲 ヲ 命 ア ミ ヲ セ リ タ 確 知 ラ テ ハ 場 シ タ 之 合 其 ル ニ 発 ノ モ 依 ス 空 ノ リ ル 襲 ト 同 警 ヲ ス 時 報 受 ニ ニ ケ	実 実 ス シ 慮 ノ 來 施 施 ル ム 大 余 襲 ヲ シ ア 報 ル ナ 裕 ス セ ラ ニ シ 爲 アル 敵 ラ サ シ 軍 場 ア 機 レ ル テ 部 合 場 防 タ ト 夜 及 所 衛 モ ハ 間 軍 ノ 要 管 ノ 之 未 部 ノ ク 区 ト ニ タ 外 防 ハ 敵 ス 依 警 一 空 準 機 リ 戒 般 二 備 來 襲 其 管 對 シ 整 ノ ノ ヲ 発	意 義 サイレン 電 燈 点 滅 煙 火 警 鐘 喇叭
	一 分 間 連 續 吹 鳴	十 回 サ イ レ ン ハ 断 續 吹 鳴 急 区 ノ 装 置 ナ キ 吹 鳴 十 回 但 急 発 三 秒 ヲ 間 シ 六 秒		
	行 ハ ス	回 シ 点 滅 三 間		
	行 ハ ス	火 打 上 煙		
	同 右	ム テ 長 及 北 適 官 樺 海 宜 二 太 道 定 於 廳 廳		

## 備考

一、警戒警報同解除ハ「サイレン」電燈点滅ヲ用フルコトナク電信電話等ニ依リ一般ニ伝達スルモノトス

二、他ノ手段ニ依リ信號ヲ以テ警報ヲ伝達スルトキハ本表要領ヲ準用スルモノトス

三、警戒警報ヲ発令スルコトナク直ニ空襲（非常）警報ヲ発令スルコトアリ

四、都市ニアリテハ警鐘ハ成ルヘク火災報知以外ニ之ヲ使用セサルモノトス

## 燈火管制規定

第一條 本規定ニ於テ燈火管制ト称スルハ来襲スル航空機ニ対シ燈火火焰其ノ他ノ光ヲ秘匿スルヲ謂フ

第二條 燈火管制ハ警報規定ニ基ク防空警報ニ應シ附表第一ニ示ス時間内ニ於テ之ヲ実施スルモノトス

第三條 燈火管制ハ非常管制及警戒管制ニ区分ス

イ 非常管制ハ空襲警報ノ発令ヨリ空襲警報ノ解除ノ発令ニ至ル間之ヲ実施スルモノトス

ロ 警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ発令ヨリ警戒警報解除ノ発令ニ至ル間所定ノ地域別ニ夫々之ヲ実施スルモノトス但シ前項ノ期間ヲ除ク

第四條 燈火管制ノ実施ハ當該燈火火焰其他ノ発光体ノ所有者管理者占有者又ハ使用者之レカ責ニ任スルモノトス

警報発令官ハ必要ト認ムル場合其地域ニ対スル送配電ヲ停止セシムルコトアリ

第五條 燈火管制ハ消燈（消火）隠蔽減光及遮光等ノ方法ニ依リ実施ス

イ 消燈（消火）トハ光ヲ消滅スルヲ謂フ

ロ 隱蔽トハ外部ニ対シ光ヲ完全ニ隠スヲ謂フ

ハ 減燈トハ減燈減燭又ハ之ニ準スル手段ニ依リ光量ヲ減スルヲ謂フ

ニ 遮光トハ燈器若クハ其ノ他ノ光源ニ対シ直接覆ヲ施シ又ハ之ニ準スル方法ヲ講シ特定ノ方向外ニ向フ光ヲ遮ルヲ謂フ

## 第六條

燈火管制ノ爲ノ燈火火焰其ノ他ノ光ヲ分類スルコト左ノ如シ

### 1 一般燈火

### 2 特種燈火

イ 一般交通關係燈

ロ 鐵道軌道關係燈

ハ 船舶及航空關係燈

## 第七條

一般燈火ヲ分類シ其ノ管制程度ヲ定ムルコト附表第二其ノ一ノ如シ

## 第八條

特種燈火中一般交通關係燈ヲ分類シ其ノ管制程度ヲ定ムルコト附表第二其ノ二ノ如シ

## 第九條

特種燈火中鐵道軌道關係燈ヲ分類シ其ノ管制程度ヲ定ムルコト附表第二其ノ三ノ如シ

## 第十條

特種燈火中船舶及航空關係燈ヲ分類シ其ノ管制程度ヲ定ムルコト附表第二其ノ四ノ如シ

## 第十一條

火焰其ノ他ノ光ヲ分類シ其ノ管制程度ヲ定ムルコト附表第二其ノ五ノ如シ

## 第十二條

本規定ニ於テ確認距離ト称スルハ各燈火ノ目的ニ應シ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限ノ距離ヲ透視距離ト称スルハ光源及其反射光等一切ノ光ニ対シ良好ナル肉眼ヲ以テ認識シ得ル最大限ノ距離ヲ謂フ

## 第十三條

防空期間中防衛司令官ニ於テ廣告燈看板燈裝飾燈及其ノ他屋外燈等ノ消燈ヲ臨機命スルコトアリ

第十四條 燈火管制中一般ニ重大ナル事故發生セルトキハ必要最小限ノ燈火ヲ使用スルコトヲ得但非常管制

中ニアリテハ警報發令官ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第十五條 燈火管制中火災發生セルトキハ其ノ附近ニ於テ消防動作ニ必要ナル最小限ノ燈火ヲ使用スルコト

ヲ得

第十六條 特殊ナル事情ニ依リ警報發令官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ其ノ認可條件ニ從ヒ本規定ノ制限ニ依ラ

サルコトヲ得

一般ニ空襲警報ニ際シ急速ニ非常管制ニ移リ得サル燈火火焰其ノ他ノ光ハ警戒管制間ヨリ非常管制ニ應スル如ク處置シ置クモノトス



現物はB4よりやや小さい幅の長巻きのパンフレットで全てルビを振っている

「見易い所に貼って置くこと」

## 防空に関する村民の心得

### 警報

警報には警戒警報、空襲警報、瓦斯警報、火災警報の四つがある。

### 警戒警報

警戒警報は敵機が来るかも知れぬと云ふ時發せられるもので、「警戒警報」と朱書して、市内各所に掲示し、防護團員は「警戒警報」と叫んで歩きます。此の警報は數日間、場合に依つては數カ月間も連續します。此の警報が解除される時は「警戒警報解除」と墨書して掲示され、防護團員は「警戒警報解除」と叫んで歩きます。

### 空襲警報

空襲警報は、敵機が来たと云ふ知らせなので、「サイレンは六秒間鳴つて三秒間休み、又六秒間鳴つて三秒休み、之を繰り返し十回鳴ります。又防護團員は「空襲」と叫んで歩きます。夜間は其の外に電燈が三回消えたり付いたりします。（晝間線を引いてある電燈には之がありません。）この警報が解除されるのは敵機が居なくなつた時で、「サイレン」は一分間鳴り續け、防護團員は「空襲警報解除」と叫んで歩きます。

### 瓦斯警報

瓦斯警報は、毒瓦斯を落された時、其の害毒を受ける危険のある地域だけに知らせるもので、防護團員が金盃か空き罐を鳴らし、又は「ガス」と叫んで歩きます。毒瓦斯が消毒せられ、或は風で吹き飛ばされて危険が無くなると、此の警報が解除せられます。其の時防護團員は「ガスナシ」と叫んで歩きます。

### 火災警報

火災警報は、焼夷弾が落された時、其の附近の者丈けに、知らせるもので、防護團員が「焼夷弾」と叫んで歩きます。鎮火すると此の警報は解除されます。其の時防護團員は「鎮火」と叫んで歩きます。普通の火事の時、は平常の通りです。但し演習の時は「演習火災」と呼びます。

### 燈火管制

敵機の来るのは通常夜間ですから、村の所在を知らさぬため、村全体を暗くすることが必要です。此の暗くする方法を燈火管制と申します。燈火管制實施の責任者は、燈火、火焰、その他發光体の所有者、管理者、占有者、又は使用者で、此の管制を怠るものが只一軒あつても、村の所在を敵機に發見せられますから、村民全部が災害を被ります。故に村民は確實に此の規定を實行しなければなりません、若し違反すると、其の責任者は、防空法に依て處分せられます。

燈火管制には、警戒管制と、非常管制との二つがあります。

### 警戒管制

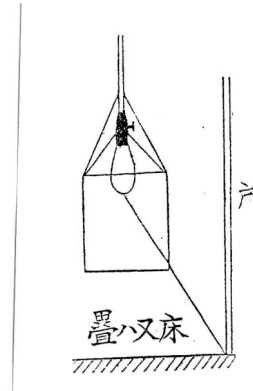
警戒管制は警戒警報が發せられた時、直に行ふもので警戒警報の解除迄連續して實行致します。

### 警戒管制の實施法

- 一、屋外の燈火は、門燈でも玄關等でも全部消します。
- 二、店先陳列窓、同棚、其の他之に類する燈火は全部消します。
- 三、屋内の燈火は、窓や戸を、光の透らぬ物で蔽ふて、外から絶体に光が見えぬ様にします、之を隱蔽と申します、隱蔽すれば何燭を用ても差支えありません、隱蔽しなければ、不要の燈火は全部消して、残った燈火は一室一燈とし、二燭光以下に減光し其の上燈火に覆をかけます。此の覆は金屬製か黒繻子の様な光の透らぬものを用ひます（覆をかけることを遮光と申します）若し一室に二燭以上を用ひるならば一坪に付〇・一燭光以内に減光し、且つ遮光しなければなりません。

遮光には覆をかける代りに、遮光電球を用ひても差支えあ

りませんが、規定通り減光されたもので無ければなりません。遮光は、次の條件に當てはまらなければなりません。



光源より發する射光が、窓又は出入口等開放部の内側下端より上の方に出ない程度

四、消した燈火は、一寸の間でも點燈することは出来ません。

五、自動車燈は一燭光以下に減光し「レンズ」の直径の二倍の長さを有する、内面黒色の圓筒を裝置して、遮光します。

以上の外、詳しい事は防護團員に聞いて下さい。

### 非常管制

非常管制は、空襲警報が發せられた時、最も迅速に行ふもので、空襲警報の解除せられる迄連續致します。

空襲警報解除後は、前の警戒管制に戻るので、平常通りになるものではありません。

### 非常管制の實施法

隱蔽するか、然らざれば、室の内外を問はず、全部の燈火を消して、眞の闇と致します。

室外では、マッチ、ライターの點火、喫煙も出来ません。

## 注意

一 警戒管制中就寝の時は、必ず燈火を消して下さい、空襲警報を知らずに寝て居ることがあります。但し隠蔽してある家屋は消灯しなくても宜しい。

二 外出の時は、晝夜を問はず「スキッチ」を消燈の位置にして下さい。不在中空襲警報があつた時消す者が無い爲です。

## 瓦斯

敵機は毒液を雨の様に降らしたり、爆弾を落して毒瓦斯を發散させたりします。瓦斯警報があつたら、家族を防毒室に入れ、一人は防毒具を着け、自宅を見廻り、火災盜難の豫防をします。防毒室や防毒具の準備が無ければ、近所の防毒室に入れてもらうか、濕手拭いを口にあて、風上の方へ避難致します。毒瓦斯は臭氣に依り、如何なる種類のものか、略ぼ見當が付きますが、馴れぬと分りません、

随て防護團員の指圖に従ふことが必要です。防毒室の作り方其の他防毒のことに就ては防護團員に聞いて下さい。

## 火災

焼夷彈が落ちた時は、火災の警報を待たず、速に近所に知らせる一方、家族總がかりで消火に努めます。消火法は燃えて居る彈体に砂をかけ、且其の周圍に水を注いで延焼せぬ様にします、砂が無ければ火の周圍に注水する丈でも宜しい、其の内に近所の者や防護團員も参りませう。焼夷彈の消火は落ちたらすぐ、かゝらなければなりません。後れては間に合ひません。

焼夷彈は一機から千個二千個も落されるものですから、同時に數百箇所に火災が起きます、随て各家庭で消火しなければ防護團も消防も手が廻らぬことになります、故に勇敢に消火に従事することが必要です。之がため各家庭では平素より砂を準備し、警戒警報があれば馬穴、桶、浴槽等有らゆる器物に水を汲んで置くが宜し

い。水道の有る家では長い「ホース」を備付けて置けば結構です。

### 一般の心得

一、空襲があつても落ち付いて、自宅に居るが宜しい。逃げ廻ったりすると、火災、盗難の虞れがあります。  
二、愈々避難しなければならぬ様になつたら、防護團で定めてある避難所へ行きなさい。この際混雑するから先を争わぬ様順序正しく行進することが必要です。又途中は交通整理者の指圖に従ひなさい。

三、空襲の時は、電線が切斷したり、水道の鐵管が破損したりすることがあります。蠟燭の準備や水の汲み置きが必要です。

四、防護團員は警察官のお手傳いをするのですから、警察官同様に心得て其の指圖に従つて下さい。

五、爆彈で負傷したり、毒瓦斯に中毒したりした時は防護團に處置を頼みなさい。

六、爆彈、焼夷彈、瓦斯彈が落ちたり、道路橋梁が破損したり、火事が起つたり、盗難があつたり、怪しい人が居つたり、何でも變わつた事があつたら、速に防護團員なり警察官に知らせして下さい。

## 朝 里 村 防 護 團

## 防空演習迫る！

守れ！ 吾等が朝里村！

時局は益々重大化し且つ急迫せる情勢は何時敵機の空襲を受くるや計り難く殊に本村は地理的に絶対防空設備の必要があります。之が準備の演習を左記日程に依り小樽市高島町と共に實施せられます。

戦時体制下の村民擧つて郷土防空戦線に活躍して下さい

第一日 十二月六日

一、午前八時 演習準備完了

二、午前九時 演習開始

三、午後四時ヨリ 燈火管制

四、午後九時ヨリ 警戒管制ノ儘夜ヲ徹ス

五、防護團員ハ演習開始前各小學校ニ集合

朝里本村朝里小學校、 熊碓本村熊碓小學校

但シ文治澤ハ同村小學校

第二日 十二月七日

一、午前七時 警戒警報解除

- 二、午前八時 演習終了
- 三、午前九時半 閱團式 講評訓示
- 四、防護團員ハ錢函分團ハ錢函小學校ヘ集合  
朝里、熊碓、文治澤方面ハ朝里小學校ヘ集合

## 昭和十二年度朝里村防空演習実施要領

### 一、演習ノ目的

時局益々重大化シ且ツ急迫セル狀況ニ鑑ミ何時敵機ノ空襲ヲ受クルモ直ニ之ニ對應シ其ノ慘禍ヲ最小限度ニ局限シ得ル如ク最モ眞剣ナル訓練ヲ行ヒ村民協力シテ防空作業ニ習熟セシムルト共ニ村民全般ニ對シ防空思想ノ普及徹底ヲ圖ルヲ以テ目的トス

### 二、演習ノ時機及区域ト其ノ重點

本演習ハ北海道廳ノ計画スル所ニ據リ行フモ当村ハ小樽市ト緊密ナル連絡ノ下ニ実施スルモノトス其ノ時機及区域左ノ如シ

第一日 十二月六日（月）

- 一、午前八時 演習準備完了
- 二、午前九時 演習開始（總合訓練）  
各團員各小學校ニ集合  
但シ監視哨員ハ坂別莊ニ集合

三、防火演習並ニ避難（小学校）訓練実施

四、午後四時ヨリ 燈火管制

五、午後九時ヨリ 警戒管制ノ儘夜ヲ徹ス

第二日 十二月七日（火）

一 午前七時 警戒警報解除

二 午前八時 演習終了

三 午前九時半 講評訓示 閱團式

各團員ハ左記ニ集合

錢函分團 錢函小學校校庭

朝里方面 朝里小學校校庭

演習区域ハ朝里村全般トス

三、演習ノ重點ヲ左ノ諸項ニ置ク

一、燈火管制ノ周密ナル実施並ニ同管制下ニ於ケル各種就業訓練

二、防空監視哨服務及防空上ノ情報通信訓練

三、防空警報受領及傳達ノ訓練

四、防火班ノ訓練 救護班ノ傷者運搬（應急救護）

五、集團（小學校）團體ノ避難訓練

四、防護訓練の実施

本演習ニ於ケル防護訓練大要左ノ如シ

一、防空監視哨



哨員全部ニ出動ヲ命シ哨長ノ指揮ニヨリ服務ス  
別冊監視哨服務要領竝ニ軍ノ示ス所ニ拠ル

## 二、警報

別表北部防衛統制管区一般警報規定ニ據ルノ外左ノ通りトス

(一) 「サイレン」ハ錢函新宮合板工場ノモノヲ使用ス

(二) 警戒警報傳達ニハ貼紙及口頭ニヨリ一般ニ周知セシム 尚「ラヂオ」ノ受信ニヨルコトヲ得  
「サイレン」電燈点滅、煙火ハ用ヒス

(三) 空襲警報傳達ニハ「サイレン」及電燈點滅、煙火、口頭、「ラヂオ」ニヨリ一般ニ周知セシム

## 三、燈火管制

燈火管制ハ北海道燈火管制規定ニヨリ行フ

但シ鉄道遞信關係ハ各々官廳ト打合セタル範圍ニヨルモノトス

午後四時ヨリ訓練ヲ実施ス 警報班、警護班、交通整理班、配給班ノ各班ハ令ナクシテ各々配置ニ就ク

## 四、警護

治安維持火災盜難予防間諜防止竝ニ要警備ニ関シテハ警察官ノ指導ニ基キ實際ノ配備ニ就ク

## 五、防火

火災ノ演習狀況ハ本部ニ於テ指示シ尚時刻場所ハ豫知セシメサルモノトス

防火演習ノ際防火班以外ハ各班見學スルコト

## 六、交通整理

交通整理ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ交通整理班之ヲ行フモノトス 夜間非常管制中ニ於ケル自動車ハ

夫々見易キ処ニ左ノ記号アルモノ以外ハ交通ヲ禁止スルモノトス 但シ止ムヲ得サルモノハ此ノ限  
リニアラス

記

(イ) 警察官廳用 (ロ) 一般官公署用 (ハ) 消防用

(ニ) 統監部用 (ホ) 新聞社用

備考 記号ノ大キサ直径十五糎 夜間ハ「ヘッドライト」ニ左ノ記号ヲ附ス

官公衙用 山 陸軍 錨 海軍 + 救急用 x 警察消防 〒 郵便関係

新聞社用 (註 陸海軍の○内はシンボルマークである)

七、配給

配給班ハ避難者ニ対シテ焚出配給訓練ヲ目的トスルモ本演習ニハ六日、夜間ノ出場團員ニ對シ焚出配  
給スルモノトス

五、宣傳

本演習ニ於ケル宣傳ハ防護團本部及各分團ニ於テ各會社組合及一般村民ニ對シ十二月四日迄周知セシム  
ルコト

六、經費

本演習実施ニ伴フ經費ハ本團村費補助ニヨル

七、防護機関

本演習ニ参加活動スヘキ機関左ノ如シ

(一) 朝里村防護團

(二) 錢函防空監視哨

(三) 一般村民

本演習ハ防護團主体トシテ活動スルモ在郷軍人分會員、消防組員ノ援助ヲ求ムルモノトス

八、其他

一、敵機ヨリ投下スル投下彈ニヨル火災ノ狀況現示ハ左ノ通りトス

赤色發煙筒使用ニ際シテハ人畜及建物ニ充分注意シ五米以上距ツルコト

二、防護團員ハ相互連絡ヲ密ニシ懇切丁寧ナル態度ヲ以テ一般村民ノ指導ニ当リ毫モ紛議ヲ醸スコトナク円満裡ニ効果ヲ收ムルヲ要ス

三、演習当日第一日集合時ヨリ各村へ連絡指導ノ爲メ本部ヨリ部長或副部長若干名派遣ス

四、分團長及本部派遣ノ部長或ハ副部長ハ演習終了後三日以内所見竝ニ狀況ヲ本部ニ報告スルコト

五、演習間狀況現示ハ本部員之ヲナスモノトス

# 朝里村防護團防空演習警報班服務令

警 報 班 長

- 一、朝里村役場ヲ警報班本部トス
- 二、班ヲ分チテ朝里分隊、熊碓分隊、文治澤分隊トス
- 三、分隊本部及分隊長左ノ通り定ム

分 隊 名	分 隊 本 部	分 隊 長
朝 里 分 隊	朝 里 村 役 場 電 話 六 〇 九 番	班 長 小 林 廣
熊 碓 分 隊	土 地 整 理 組 合 電 話 四 一 三 九 番	副 班 長 内 田 五 郎
文 治 沢 分 隊	發 電 所 小 樽 市 若 竹 町 変 電 所 電 話 三 〇 四 一 番 中 繼	副 班 長 藤 平 定 一

四 分隊区域内ノ班員配備左ノ通りトス

朝里分隊	1	朝里村役場	五名	小林廣	和田悟	太田勇平
	2	朝里駅	三名	永山友作	徳光拓	
	3	朝里學校	三名	大平作藏	上林哲夫	本間富雄
	4	張碓駅	一名	渡辺厚藏	牧田武	小林裕芳
熊碓分隊	1	土地整理組合	七名	内田五郎	村上儀藏	佐々木藤吉郎
	2	長昌寺	二名	東田正一	小林吉春	内田八郎
	3	張碓學校	二名	鶴谷秀次郎	加藤東一	
	4	若竹變電所	二名	石塚武雄	小蕎英一	
文治沢分隊	1	發電所	三名	藤平定一	高野信一	長武
	2	文治沢學校	三名	福村要吉	加藤房雄	石沢幸太郎
	3	水源池	一名	長芳雄		
		寺ノ沢ノ適當箇所二警報所設置スルヲ可トス				

駅ニ通報、班長ハ若竹変電所ヲ通シテ文治沢分隊ニ速報シ他ノ班員ハ管区ヲ一巡警報スヘシ

二、朝里学校詰員 警報ヲ受ケタルトキハ直ニ管区ヲ一巡警報スヘシ

三、朝里駅詰員 驛ヨリ警報ヲ受ケタルトキ一人ハ直ニ本部ニ通報シ本部ヨリ警報ヲ受ケタルトキ一人ハ管区ヲ一巡警報スヘシ

四、張碓驛詰員 警報ヲ受ケタルトキハ直ニ管区ヲ一巡警報スヘシ

#### △熊碓分隊

一、土地整理組合詰員 警報ヲ受ケタルトキ一名ハ長昌寺へ一名ハ熊碓學校へ速報シ連絡員ヲ除キ他ノ班員ハ管区ヲ巡警報スヘシ

二、長昌寺詰員 警報ヲ受ケタルトキハ直ニ警鐘ヲ鳴打シ他ノ一名ハ管区ヲ一巡警報スヘシ

三、熊碓學校詰員 警報ヲ受ケタルトキハ直ニ警鼓ヲ鳴打シ他ノ一名ハ管区ヲ一巡警報スヘシ

四、若竹町変電所詰員 警報ヲ受ケタルトキハ直ニ文治沢分隊本部ニ速報スヘシ

#### △文治沢分隊

一、發電所詰員 警報ヲ受ケタルトキハ直ニ一名ハ警鐘（板）ヲ鳴打シ、一名ハ文治沢學校ニ速報、他ノ班員ハ在所シテ連絡ヲ保ツヘシ

二、文治沢學校詰員 警報ヲ受ケタルトキハ直ニ一名ハ警鐘ヲ鳴打シ他ノ班員ハ管区ヲ一巡警報スヘシ

三、水源地詰員 警報ヲ受ケタルトキハ直ニ管区ヲ一巡警報スヘシ

七、燈火管制ニ依ル空襲警報ノ警報鳴打ハ左ノ通りトス

1 発令 連續急速ニ約二分間鳴打スヘシ

2 解除 徐々ニ約一分間鳴打スヘシ

八、分隊長ハ分隊区域内ノ情報ヲ隨時本部ニ通報スヘシ

以上

## 防空演習日程

第一日 十二月六日

- 一、午前八時 演習準備完了
- 二、午前九時 演習開始
- 三、午後四時ヨリ 燈火管制
- 四、午後九時ヨリ 警戒管制ノ儘夜ヲ徹ス
- 五、防護團員ハ演習開始前各小學校ニ集合
- 六、警報班員午後九時ヨリ管区ヲ一巡警戒管制ヲ警告シ朝里分隊ハ朝里學校へ、熊碓分隊ハ長昌寺へ、文治沢分隊ハ文治沢學校へ集合スヘシ

第二日 十二月七日

- 一 午前七時 警戒警報解除
- 二 午前八時 演習終了
- 三 午前九時半 閱團式 講評訓示
- 四 朝里、熊碓、文治沢各分團共朝里小學校ニ集合

昭和十二年十二月三日

小樽警察署長  
朝里村防護團長

團員各位 殿

防空演習ニ出動方依頼ノ件

来ル十二月六、七日村民一致戰時体制下ニ防空演習実施致可候ニ就テハ第一日演習開始ノ午前九時  
ニハ全員洩レナク各小學校ニ集合セラレ度此段及御依頼候也  
尚事故ノ為出動不可能ノモノハ十二月五日迄御届相成度

### 小樽地方防空演習想定

十二月五日午後五時發表

一、帝國四圍ノ情勢ニ鑑ミ北海道廳ハ軍部ト密接ナル連繫ノ下ニ防空計畫ヲ樹立スルト共ニ各關係主腦部モ亦時局対策ヲ協議シ防空準備ニ於テ遺憾ナシ

二、北海道廳長官ハ近ク敵機ノ空襲ヲ豫期シ内務大臣ノ防空実施命令ニ基キ十二月五日全道ニ防空實施令ヲ下達シ小樽市長、高島町長、朝里村長ハ同日午後四時同令ヲ受領シ之ヲ一般ニ示達セリ

三、十二月五日夜半迄ニ同記各市町村長ハ左ノ狀況ヲ知り六日早朝防護團ノ出動ヲ命セリ  
信スヘキ諜報ニ依レハ乙國重爆數十機ハ最近〇〇洲某地（瓦斯工場其他重軍需工業地トス）ニ移動シタル  
モノノ如ク北部日本海ニ於テハ数日来國籍不明ノ飛行機頻ニ飛翔シツ、アリ

情況 第一

十二月六日午前零時發表



乙國空軍ハ其ノ航空根據地ヲ逐次本道対岸ニ推進中ニシテ本道ハ近ク敵機ノ空襲ヲ豫期セサルベカラサル狀況ニアリ

情況 第二（警戒警報）十二月六日午前九時發表

- 一、甲乙兩國ノ國交ハ十二月五日夜半ニ断絶シ敵機ノ我カ上空ニ現出スルモ將ニ瞬時ニ迫レリ  
此國難ニ際シ道民ノ愛國心ハ極度ニ高揚シ防空諸準備ニ遺憾ナク意氣愈々旺ナリ
- 二、我朝里村防護團ハ既ニ配備ヲ完了シ死力ヲ盡シ防護ニ任セントス 各班亦連絡ヲ密ニシ一步モ敵機ノ侵害ヲ許サザルノ態勢ヲ示シ村民ノ士氣益々振ヒ安シテ其ノ業務ニ服シ村落ハ平常ノ如ク活氣ヲ呈ス
- 三、敵ノ重爆撃機六機ハ今拂曉南樺太ノ要地ヲ爆撃シ西方ニ去ル
- 四、我空軍ノ主力ハ支那方面ニ活動中ナルモ札幌ニハ若干ノ防空飛行機アリ
- 五、当地区防衛司令官ハ午前九時警戒警報ヲ命セラル

教令

- 一、タイムス飛行機一機ヲ以テ敵ノ重爆三機ノ編隊ヲ示ス
- 二、天候其ノ他ノ都合ニ依リ飛行機力演習ニ参加シ得サル場合ニ於テモ統監部ノ發スル警報及情報或ハ情況現示ニ依リ對空動作ヲ実施スルモノトス

全 村	錢 函 分 團	本 團  面 方 里 朝				村 区 分
ヨ 後 六 十 リ 四 日 二 時 午 月		午 六 十 前 日 二 中 月				月 日 時
底 ノ 管 燈 徹 制 火	演 救 避 防 火 習 護 難 火				科 目	演 習
朝 高 小 里 島 樽 村 町 市	錢 函 小 學 校	張 碓 小 學 校	文 治 沢 小 學 校	朝 里 小 學 校	熊 碓 小 學 校	予 定 場 所
ノ 市 元 並 二 二 行 附 フ 近 町 村 民 一 致	右 同	右 同	右 同	右 同	者 起 焼 ヲ リ 夷 救 小 彈 護 學 投 防 生 ノ 火 避 セ 班 難 ラ ノ 活 負 動 動 傷 災	實 施 要 領
一 警 同 報 ノ 二 徹 対 底 ス ル	右 同	右 同	右 同	右 同	訓 管 班 主 練 理 救 ト 班 護 シ ノ 班 テ 合 避 防 同 難 火	主 要 着 眼
	右 同	右 同	右 同	右 同	示 火 煙 赤 災 災 筒 色 現 現 発	摘 要
警 配 警 護 給 報 班 班 班					避 救 防 難 護 火 管 班 班 理 班	活 主 動 ト ス シ ル テ 班 班

昭和十二年度第二回朝里村防護演習計劃一覽表

空襲警報及飛行機飛來予定時刻					
回数	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
空襲予定時刻	午前九—五〇	午後一—二〇	午後一—二〇	午後一—二〇	午後一—二〇
飛行機飛來	午前十一—〇	午後二—二〇			
十二月六日					
摘要	一	二	三		
各小學校ニ於ケル防火演習ハ第一回	空襲時実施スルモノトス	警報ノ發令ハ毎回ラチオ放送ト決定	セリ然シテ各班ノ行動ハ最も早キ	通報ニヨリ行動スルモノトス	飛行機ノ飛來ハ天候ノ關係ニ因リ中止又ハ予定ヲ變更スルコトアルベシ

## 朝里区内文治沢警報班報告書

### 一、第一日目（六日）

#### 一、警報班活動狀況

#### 一、午前ノ活動狀況

#### 一、午前九時我ガ班員一同（七名）ハ文治沢小学校校庭ニ集合

出席者氏名

藤平定一 福村要吉 石沢幸太郎

加藤房夫 長 武 金子金太郎

高野信一

以上

#### 一、文治沢校庭ニ於テ吉田指導員ノ訓辞ヲ受ケ直チニ各班ノ活動作業ヲ見学ス 午前九時五十分指導員ノ指導

ニヨリ空襲警報ヲ發令ナサシムルヲ依頼サレ警報ヲ發ス 文治沢小学校焼夷彈投下サレ各班ノ活動狀況

高成績ヲ收ム以後演習終了後我カ班ノ成績良好ナラシムル可ク邊境ノ住民地域ヲ班員全部スキ―ヲ以テ

当地施行ノ方法ヲ尚一層徹底セシム可ク宣傳戰ニ赴ケリ 以上

#### 一、午後ノ活動狀況

#### 一、班員ハ午後三時半集合シ各出張詰所ニ出場ス

一、即チ午後四時、本部、文治沢小学校、水源地ニ各配置員（班員）ヲ派遣四時迄ニ任務ニ着カシム

一、非常警報 文治沢本部到着 六時三十分警報接收ス

非常警報ト俱ニ班長指令書ノ活動方法ヲ採リ 水源地ヘハ電通シ小学校ヘハ伝令ヲスキヲ以テナサシム 各警報員ハ直チニ警鐘乱打及ヒ赤字警報ビラヲ要所ニ貼付ス アルヒハ燈火 管制ノ徹底ヲ区域内ヲ一巡シテソノ効ヲ奏ス

警鐘ハ音響低音ナル爲部落一部ヨリ聴取サレズ、呆然、前以テ小樽市サイレンノ聞込ノ際ノ消灯アルヒハ隠蔽方法ヲ宣傳シタルヲ以テ効果貫徹ヲ期ス

一、空襲警戒解除 六時四十三分着電

文治沢ハ非常管制ノ儘空襲警報解除ノ報ニ接シ非常警戒ノ行動連絡ヲナシ 警鐘一分間置ニ點鐘シ各班員ニ二区域ヲ一巡セシム

一、第二回非常警報 八時十五分 着電

第一回目ト全シク任務完了

一、第二回空襲（警報）解除 八時二十八分 着電

第一回ト全シク任務完了

一、午後九時五分頃、文治沢区内ハ警戒管制ノ儘徹夜、演習（第一日）解散命令ニ接シ各班員区内ヲ一巡シテ文治沢小学校ニ集合シ指導員ノ挨拶出席者名點呼シ以後食事ヲ為シ解散トス

以上報告終リ

#### 備考

当地我力警報班ハ除雪深キ折柄ソノ活動多難ナリキ

電話モ大部發電所員ニ取継キシテ戴キ種々ナル方法ノ爲（私設系ニヨル爲）也

警鐘モ不備 煙火ノ取扱良好ト各兄等ノ意向ナリキ

以上

班長 小林 廣 殿

副團長・文治澤分隊長 藤平 定一

朝 防 號

昭和十三年二月十八日

朝里村防護團長 津田運吉

小林 廣 殿

朝里村 防護團 長之印
-------------------

### 防空座談會開催ノ件通知

来ル二月二十二日午後一時ヨリ役場會議室ニ於テ防空座談會開催致可候ニ付キ当日ハ北海道廳防空課員、小樽警察署防空関係員来村、有益ナル指導有之候ニ付キ必ス御参集相成度

追而 班長、副班長以上ニノミ通知致候処最寄班員ヲ成可ク御誘ヒ参集方取計ハレ度

御通知

来ル十九日ヨリ四日間ニ亙リ北海道防空訓練実施セラレ候処 右訓練ノ万全ヲ期スヘク来ル十一日午後一時

ヨリ當場ニ於テ打合會開催致度御多忙中恐縮乍ラ萬障御繰合御出席相煩度此段及御願申上候  
尚各班長ハ班員ノ欠員補充等ニ付予メ人選等御配意煩度

昭和十三年五月十一日 協議會

朝里村長 津田運吉

## 昭和十三年度春季北部防空訓練朝里村實施要領

### 一、訓練ノ目的

今期防空訓練ハ時局益々急迫シ長期戰時体制下ニ於テ何時空襲ヲ受クルモ直ニ之ニ對應シ其ノ慘禍ヲ最小限度ニ局限センカ爲メ防空實施上最モ喫緊ナル警報ノ傳達竝ニ燈火管制ノ基本的訓練ヲ實情ニ即スル如ク實施スルヲ以テ主眼トス

### 二、訓練ノ重點

(一) 防空警報ノ迅速確實ナル受領及傳達ノ訓練

(二) 燈火管制規則ニ依ル燈火管制ノ周密ナル實施竝ニ同管制下ニ於ケル各種就業ノ訓練及燈火管制用各種資材ノ一般整備前二號以外ノ訓練ハ燈火管制實施ニ伴フ警護竝ニ交通整理配給ノミニ止ムルモノトス

### 三、訓練實施地域期間竝ニ參加機關

小樽市、高島町、朝里村、札幌市、豊平町、白石村ノ一部、圓山町、室蘭市、苫小牧町、夕張町 以上各地域共沿岸水域ヲ含ム

自 五月十九日 至 五月二十二日

- (一) 関係官公衙 (二) 防護團 (三) 一般住民

#### 四、統監

本防空訓練ハ内務省ノ訓練命令ニ依リ軍部ノ指導ノ下ニ北海道廳長官之ヲ統監ス

統監部ハ小樽市役所内ニ設置セラレ訓練第一日ヨリ開設セラル

#### 五、訓練指導及監督要領

- (一) 第七師団ヨリ指導官派遣セラレ訓練ノ実地指導及講評等各般ノ指導援助ヲ與ヘラルモノトス  
(二) 北海道廳ヨリ係官派遣セラレ警報傳達及通信竝ニ燈火管制其ノ他交通整理警護等ノ監督ニ当ラル、モノトス

- (三) 警報傳達、通信及燈火管制ノ監督ハ主トシテ道廳ニ於テ行ハルルモ其ノ指導ハ小樽警察署及村長之ニ当ルモノトス 尚鉄道遞信関係等ニ対スル警報傳達通信燈火管制ニ関シテハ村長当該主務官廳竝ニ道廳ト連絡シ統一シタル指導監督ヲ行フモノトス

#### 六、訓練豫定行事 (各地域共通)

##### 一、警報傳達

第一日 十九日 自 午前十時 至 午後十時

- (1) 遞信電話ノミニヨリ (電信ヲ含ム以下同シ) 村長ニ至ル迄ノ警報傳達  
(2) 直接警報ヲ受領スルモノノ警報受領ヨリ所屬系統ニヨリ各端末ニ至ル迄ノ警報傳達  
(3) 遞信電話ノミニヨリ村長ヲ通ジ一般住民及在泊船舶ニ至ル迄ノ警報傳達  
(4) 各種傳達ヲ綜合シ一般住民及在泊船舶ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報傳達  
第二日 二十日 自 午前十時 至 午後十二時



(1) 各種傳達方法ヲ綜合シ村長迄ノ最モ迅速ナル警報ノ傳達 但シ「ラジオ」ニ依ル警報傳達ヲ除ク

(2) 警察電話及鐵道電話ノミニ依リ村長ヲ通シ一般住民及在泊船舶ニ至ル迄警報傳達

(3) 遞信電話ノミニヨリ村長ノ警報受領ヨリ一般住民及在泊船舶ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報傳達

(4) 各種傳達方法ヲ綜合シ一般住民及在泊船舶ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報傳達

以上行事中ニ一部地域ニ於ケル通信施設ノ破壊サレタル場合ノ警報傳達ニ回行フ

第三日 二十一日 自 午前十時 至 午後十時

各種傳達方法ヲ綜合シ一般住民ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報ノ傳達 以下同一行事ヲ四回反覆ス  
ルモノトス

第四日 二十二日

午前七時左記ニヨリ閱團式講評訓示ヲ行フ

朝里分團 朝里小學校々庭

錢函分團 錢函小學校々庭

但シ本部ヨリハ代表者小樽市ニ分流参列スルモノトス

## 二、燈火管制

(1) 燈火管制ハ警報ノ種別ニ從ヒ第一日ヨリ第三日迄行フモノトス

(2) 燈火管制ハ左記ニ重點ヲ置クモノトス

(イ) 各種燈火ニ對シ隱蔽又ハ減光、遮光材料ノ整備ニ努メシムルコト

(ロ) 燈火管制下ニ工場、事業場、商店等ノ就業訓練ニ意ヲ注ギ徒ニ消燈、休業等ナサシメサル様指導スルコト

七、今期防空訓練ニ於テハ遞信電話ヲ以テ主系統トス

八、防空警報ハ訓練防空警報規則ノ定ムル所ニヨリ實施ス

九、直接警報受領者及其ノ傳達系統ハ別表ノ通りトス

一〇、防空警報ノ種類及傳達信號ハ左記ニヨル

1 警戒警報 揭示及メガホンニヨリ口頭傳達

2 空襲警報 「サイレン」 三秒ヲ間シ六秒吹鳴十回

電灯 数秒ヲ間シ点滅三回

煙火 打上

警鐘・梵鐘 五秒ヲ間シ五点連打（十回）

3 空襲警報解除

「サイレン」 一分間連続吹鳴

警鐘・梵鐘 十秒ヲ間シ一点打（十回）

4 警戒警報解除

揭示及メガホンニヨリ口頭傳達

一一、第一日第一回ノ警報發令時刻ハ概示スルモ其ノ他ハ隨時之ヲ發ス

一二、實施上ノ注意事項

一、今期訓練ハ原則トシテ警報班ヲ召集スルノ外燈火管制實施ニ必要ナル程度ニ於テ警護班及交通整理班配給班ヲ召集スルモノトス

（各班ノ業務ハ朝里村防護團業務書ニ拠ルノ外本實施要領ニ依ル）

二、訓練關係員ハ「ラジオ」時報ニ依リ時計ヲ規正スルモノトス

三、燈火管制ノ實施ハ燈火管制規則ニ基キテ行フベク防護團ニ於テハ豫メ充分ナル研究ヲ遂ケ周密ナ

ル準備ト所用ノ設備ヲ完備シ一般村民ニ對シテ理解シ易キ「ビラ」ノ配布等ニヨリ周知徹底セシメ且ツ訓練時ニ於ケル懇切ナル指導ト相俟テ其ノ實効ヲ收ムルヲ要ス

四、訓練ノ開始、終止ハ主トシテ口頭、電話、揭示等ニ依リ又為シ得ル限り「ラジオ」ヲ利用シ各防護團及一般村民ニ傳達スルモノトス

五、訓練視察ノ新聞記者及写真班員ニハ左記様式ノ腕章ヲ使用セシムルモノトス 見学者ニモ要スレハ一定ノ記章ヲ佩用セシムルモノトス

〇 〇 警 署 記 章 (右記各型)  
警 署 記 章 型

六、防空訓練ニ参加スル自動車ニハ交通整理ニ便ナラシムル爲左記標識ヲ附ス 但シ土地ノ狀況ニヨリ交通上支障ナキ時ハ之ヲ略スルコトヲ得

一 晝間ハ見易キ個所(前面)ニ左ノ記號ヲ附ス

イ 警察官署用 警 赤 記号ノ大サ直径十五糎円型

ロ 一般官公署用 公 黒 同

ハ 統監部 統 青 同

ニ 新聞社用 新 紫 同

二 夜ハ「ヘッドライト」ニ左ノ記號ヲ附ス

陸軍 統監部 警察 郵便 新聞通信 海軍 官公署 消防 救急

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

(註 陸海軍の○内はシンボルマークである)

夜間空襲管制中ニ於テハ前項ニ定ムル記号ヲ附セサル自動車ノ交通ヲ禁止スルモノトス  
但シ已ムヲ得サルモノハ此ノ限りニ非ラス

一三、警察官吏防護團員ハ相互連絡ヲ密ニシ懇切叮嚀ナル態度ヲ以テ一般村民ノ指導ニ当リ各團體相互及村民トノ紛議ヲ醸スルコトナク円満裡ニ効果ヲ收ムルヲ要ス

一四、防護分團ニ於テ警報受領ヲ迅速確実ナラシムル爲メ警報受領及傳達ノ責任者ヲ定メ置キ要スレハ警報班ヨリ所要個所ニ連絡員ヲ派遣シ置クモノトス

一五、成績調査

一 警報傳達ノ成績調査

村長ノ警報受領並ニ一般村民迄傳達ノ調査(第一号表) 右ハ防護團本部警報部及各分團警報班調査スルモノトス

二 村長ハ一般村民中ヨリ適當ノ者ヲ選定指名シ第二号表ニヨル調査ヲナサシムルモノトス

一六、調査票提出

各分團ニ於テハ前二号ノ指名者ノ調査表ヲ取纏メノ上毎日午前八時迄(第三日目ハ午前十時半迄)ニ村長ハ集計ノ上統監ニ申報スルモノトス

一七、燈火管制ノ成績調書

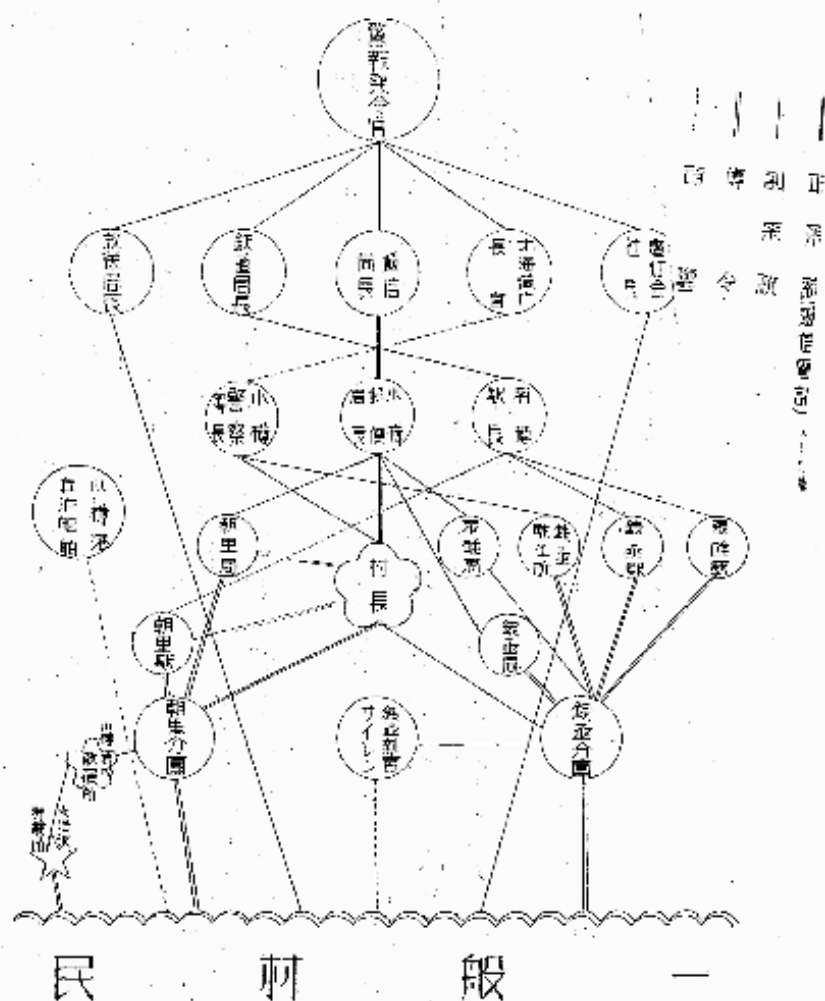
一 燈火管制ニ關スル調書ハ別表第五号表(警戒管制ノ場合) 及第六号表(空襲管制 不明 行フモノトス

二 右調査員ハ村長ニ於テ適當ノモノヲ選定シ 不明 トス

一八、村長ハ訓練終了後左表区分ニヨリ第七師団長及北海道廳長官ニ報告スルモノトス

提出書類名		調整セル計画及規程類		訓練實施概況及將來二對		改善意見・資料添附		經費概算	
提出部数	軍部	各二部	各二部	各二部	各二部	各二部	各二部	各二部	各二部
	道廳	各二部	各二部	各二部	各二部	各二部	各二部	各二部	各二部
村二於ケル提出期日		訓練終了後七日		十五日		十五日		十五日	
摘要		分團二於テハ訓練實施		概況及將來二對スル改善		意見ヲ訓練終了後七日		報告スルモノトス	

警報傳達系統圖



内務省令第十二號

訓練防空警報規則左ノ通り定ム

昭和十三年四月五日

内務大臣 末次信正

訓練防空警報規則

防空法第十條第一項ノ規程ニ依ル防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ發スル訓練防空警報、防空警報ノ區分ニ準シ訓練警戒警報、訓練警戒警報解除、訓練空襲警報及訓練空襲警報解除トス  
訓練防空警報ヲ發スヘキ者ハ防空訓練ノ都度内務大臣之ヲ指定ス  
前項ノ指定ナキ場合ニ於テハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官又ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝里村防護團々則改正ノ件

第二條 「大字錢函村ニ分團ヲ置ク」トアルヲ大字錢函村及大字朝里村ニ分團ヲ置ク

第五條 「大字錢函村分團ハ大字張碓村ヲ含ム」トアルヲ大字錢函村分團ハ大字張碓村ヲ含ム大字朝里村分團ハ大字熊

碓村ヲ含ム

第二十二條 三 「分團長一名」トアルヲ 分團長 二名

四 「副分團長三名」トアルヲ 副分團長 四名

昭和十三年五月十一日決議



朝 防 空 號

昭和十三年五月十六日

朝里村長 津田運吉

防護團員

小學校長 殿

消防組頭

区長

防空警報警鐘打鳴ニ関スル件通知

首題ニ関シ其ノ筋ヨリ通牒有之候ニ付キ一般住民ニ周知徹底方取計ハレ度尚今期演習ニモ打鳴致可候

一 空襲警報 一点四点班打 ○——○——○——○ (十回反覆)

一 空襲警報解除 一点打 ○ (適當時間ヲ置キ十回反覆)

昭和十三年春季北部防空訓練ニ依ル

朝里防護團朝里分團警報班服務令

警報班長

- 一、朝里村役場ヲ朝里分團警報班本部トス
- 二、班ヲ分チテ朝里分隊、熊碓分隊、文治沢分隊トス
- 三、分隊本部及分隊長左ノ通り定ム

分隊名	分隊本部	分隊長
朝里分隊	朝里村役場 電話 六〇九番	班長 小林 廣
熊碓分隊	土地整理組合 電話 四一三九番	副班長 内田 五郎
文治沢分隊	發電所 小樽市若竹町變電所 電話 三〇四一番中繼	副班長 藤平 定一

四、分隊區域内ノ班員配備左ノ通りトス 但シ分隊長ノ命令ニ依リ適當人員ヲ交付配備スルモ妨ケナシ

朝里分隊				熊碓分隊				文治沢分隊		
朝里村役場	朝里駅	朝里郵便局	朝里小學校	土地整理組合	村上商店	熊碓小學校	若竹変電所	發電所	文治沢學校	水源池
四名	三名	三名	二名	七名	二名	二名	二名	三名	三名	一名
小林廣	大平作藏	永山友作	小林作藏	内田五郎	佐藤久俊	鶴谷秀次郎	石塚武雄	藤平定一	福村要吉	長芳雄
和田悟	鷺田政樹	牧田武	小林裕芳	村上儀藏	齊藤忠良	加藤東一	小蕎英一	高野信一	加藤房雄	
太田勇平	上林哲夫	本間富雄		増田熙	内田八郎			長武	石沢幸太郎	
徳光拓				村岡富則						

五、防空訓練ハ左ノ通り行ハルヘキニ付班員ハ開始時間前必ス出動スヘシ

第一日 五月十九日 自 午前十時 至 午後十時

(1) (2) 省略

(3) 遞信電話ノミニヨリ村長ヲ通シ一般住民ニ至ル迄ノ警報傳達

(4) 各種傳達ヲ綜合シ一般住民ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報傳達

第二日 五月二十日 自 午前十時 至 午後十二時

(1) 省略

(2) 警察電話及鉄道電話ノミニ依リ村長ヲ通シ一般住民ニ至ル迄ノ警報傳達

- (3) 遞信電話ノミニ依リ村長ノ警報受領ヨリ一般住民ニ至ル迄最モ迅速ナル警報傳達
- (4) 各種傳達方法ヲ綜合シ一般住民ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報傳達

以上行事中ニ一部地域ニ於ケル通信施設ノ破壊サレタル場合ノ警報傳達二回行フ

第三日 二十一日 自 午前十時 至 午後十時

各種傳達方法ヲ綜合シ一般住民ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報ノ傳達 以下同一行事ヲ四回反復スルモノトス

第四日 二十二日

午前七時左記ニ依リ閱團式、講評、訓示ヲ行フ

朝里分團 朝里小学校校庭

第一日ヨリ第三日迄ハ警報ノ種別ニ從ヒ燈火管制ヲ行フモノトス

六 防空警報ノ種類及傳達信號ハ左記ニ拠ル

1 警戒警報 揭示及メガホンニヨリ口頭傳達

2 空襲警報 「サイレン」三秒ヲ間シ六秒吹鳴十回

電燈数秒ヲ間シ点滅三回

警鐘・梵鐘五秒ヲ間シ五点連打十回

3 空襲警報解除 「サイレン」一分間連続吹鳴 警鐘・梵鐘 十秒ヲ間シ一点打十回

4 警戒警報解除 揭示及メガホンニヨリ口頭傳達

七 班員ハ分隊長ノ指揮命令ニ從ヒ最モ敏速果敢ニ警報傳達ノ任務ヲ全フスヘシ

班員ノ服裝ハ輕装トシ前回ニ交附セル腕章ヲ附スヘシ 腕章ナキ者ハ分隊長ヲ通シテ村役場ニ請求スヘシ

班員ハ第一日ヨリ第三日迄ノ三日間ハ各自晝食ヲ携帯出動スヘシ 三日間ノ晩食ハ配給班ヨリ之ヲ支給ス 夜食ハ各自帰宅ノ上喫スヘシ

八 分隊長ハ訓練三日間ノ成績ニ付記録シ置キ本部ヨリノ照會ニ対スル回答資料ヲ整備シ置クヘシ  
以上

**注 小林氏のメモ 時刻の細目の確認**

第一日 (3) (4) 午後六時以後トス (3) ハ一回、(4) ハ三回行フ

第二日 (2) 正午ヨリ午後四時ノ間

(3) (4) ハ午後六時以後トス (3) ハ一回、(4) ハ三回行フ

第三日 午前十時ヨリ午後十時ノ間ニ四回反覆ス  
空襲管制時間ハ三十分以上ノ予定ナリ

**注 八月演習の爲の打合会合案内**

時下炎暑ノ候益々御清榮ノ段奉賀候

陳者今夏八月九日ヨリ十二日迄四日間北海道全区ニ互リ行ハルル防空訓練ニ関シテハ各位ニ於カレテモ夫々御承知ノ事ト存候処之カ実施ニ関シテハ各位ノ御尽力ニ拠リ前回ヨリ以上ノ成績ヲ收メ度ト存シ御多忙中恐縮ニハ候ヘトモ左記日程ニヨリ打合會開催致度候間萬障御繰合ノ上必ス御出席相成度此段〇御依頼候也

記

朝里分團

八月一日午後一時

役場會議室

錢函分團

八月二日午後一時

錢函青年俱樂部

追而各班ニ缺員アル場合ハ班長ニ於テ人員選考ノ上打合會当日名簿御持參相成度

各位 殿

朝里村防護團長 津田運吉

注 昭和十三年八月夏期防空訓練指導官派遣・巡視の連絡

拝啓時下春暖ノ候貴殿益々御健勝ノ段奉賀候 陳者来ル十九日ヨリ施行セラル防空訓練ハ基礎的訓練ニシテ然モ軍部ヨリハ四日間連日當村指導官トシテ 阿部騎兵大尉実地指導竝ニ北海道廳ヨリモ多数ノ指導官派遣セラレ各村隨時巡視指導モ有之候條万障繰合セ銃後ノ國土ヲ護ル第二線戰士トシテ必ス参加下被度重ネテ御依頼申上候

尚 左記御含ミ相成度 (集合日時ハ十九日ヨリ二十一日迄)

朝里分團 熊碓村 警報班 午前九時半 熊碓小學校

配給班 午后四時半 々

交通整理班 同 々

警護班 午后六時半 々

文治沢村 各班集合時刻 熊碓村ニ同シ

朝里村

但シ文治沢小学校ニ集合ノコト

警報班 午前九時半 役場

配給班 午后四時半 朝里小学校

警護班 午后六時半 々

交通整理班 午后四時半 々

錢函分團 張碓村

各班集合時刻 朝里村ニ同シ

但シ張碓小学校ニ集合ノコト

錢函村 十万坪、星置、谷地 各班集合時刻 張碓村ニ同シ

但シ張碓小学校ニ集合ノコト

本村 警報班 午前九時半 井口副分團長宅

配給班 午后三時 龍眼寺

警護班 午后六時半 錢函小学校

交通整理班 午后四時半 々

小樽警察署

朝里村役場

殿

五月十九日より四日間

長期戦時體制下に

## 朝里村防空訓練 を実施す

朝里村小朝  
里村防里  
役警村  
場署園

### を村里朝土郷れ護

● 今回の防空訓練は特に平常通就業をしながら

警報の傳達と  
燈火管制の訓練をするのですから

● 警報にはどんな種類があつてどんな合圖で一般に知らすか

一、訓練警戒警報（敵機が来るかも知れぬと言ふ時に發す）

村内各所へ「訓練警戒警報」と朱書で掲示したり又分團員が口頭で知らせる

二、訓練警戒警報解除（敵機が来る心配なくなつた時に發す）

村内各所へ「訓練警戒警報解除」と黒書掲示したり又分團員が口頭で知らせる

三、訓練空襲警報（敵機が來た時に發す）

サイレンを六秒間鳴らし三秒間休みこれを繰り返して十回鳴らす又分團員が口頭で知らせるこの外夜間は電燈を數秒を間し點滅三回

「訓練空襲警報」發令の時警鐘梵鐘：五秒間五點打十回

空

● 燈火管制とはどんなことか

敵機の空襲に對し

警戒管制と  
空襲管制の

二つの段階によつ

て全村を眞暗くする方法を燈火管制と言ふ

一、警戒管制は

夜間「訓練警戒警報」と發令あつた時直ちに村の燈火の制限で「訓練空襲警報」又は「訓練警戒警報解除」と云ふ發令ある迄連續して行ふものです、どの程度に燈火を制限するかは次の表を参照のこと。

二、空襲管制は

いよく敵機が空襲してきたとき「訓練空襲警報」と發令あるから最も迅速に燈火の完全管制を行ふもので「訓練空襲警報解除」と云ふ發令迄實施するのです、「訓練空襲警報解除」の發令があつても前の「訓練警戒管制」の状態に戻るもので

村民各位は至急燈火管制に必要な各種資材（例へば親子電球、管制球、隱蔽幕等）の準備をして本訓練に臨んで下さい  
尚又消燈して仕事を休んだり寝てしまつては本訓練の主旨に副ひません一旦緩急の場合は燈火管制が幾月或は幾年續くかも知れないその場合の訓練ですからこの點充分に承知せられたし



一、訓練空襲警報解除（敵機が居なくなつたことを知らず警報）

サイレンを一分間鳴り続ける又分團員が口頭で知らす

「訓練空襲警報解除」發令の時警鐘梵鐘……十秒之間、一點打十回

●燈火管制資材としてどんなものがあるか

(1) 電燈を暗くする場合（即ち減光材料）

一、親子電球が一々電球を取替へる手数がいらぬため一番便利である平常は親子電球の、親をつけ警戒管制の時は一寸左に球をひねつて子球に切り替へ空襲管制には更に左にひねると消燈と云ふ具合になる

(2) 電燈に對しての覆する場合（即ち遮光材料）

一、着物や蒲團等の古布三枚重ね或は黒の新モスならば二枚重ね又は新聞紙三枚重ねてこしらへたもの（必ず電燈の笠から覆ふこと）

(3) 窓に覆する場合（即ち隱蔽材料）

一、普通用ひられる黒モス毛織子ならば二枚重ね、新聞紙ならば五枚張合せ或は黒色ルーフィング紙、馬糞紙ベニヤ板ならば一枚でよい

二、應用品としては分厚の藁、毛布、屏風がある

親子電球は各村北水指定電球發賣店で發賣して居りますから  
お求め下さい

## 一 第 二 章 全 體 的 な 火 災 防 止 策

平常の通になるのでありませんが特にこの點氣を付けて下さい。燈火の完全管制は次表の如くにして下さい。

### 警 戒 管 制

一、屋外の燈火

門燈でも、玄關燈でも、廣告看板裝飾燈でも、店先燈類でも全部消燈する

二、屋内の燈火

外部から絶対に光が見えぬ様な隱蔽の設備をすれば何燭光の燈火を用ひても差支ない

但し隱蔽の設備ない時は次の如くに減光のこと

(1) 四疊半と六疊の室には親子電球の子球（子球は二燭光です）をつけて笠の上から極簡単に覆ふすること

(2) 八疊或は十疊の室では親子電球の子球（子球は二燭光です）の儘で結構です

(3) 一室に二燈以上つける場合でも一燈の燭光は二燭光以上ではいけません（三平方米約一坪疊二枚分に付〇・五燭光の割合）ですから親子電球が便利です

(4) 前記(1)、(2)、(3)の減光をしないで平常のまゝの電球をつけてゐる場合は必ず電燈や窓に對して遮光及隱蔽の設備をして外部から見て(1)、(2)の光の程度であること

三、普通車輛燈及携帯燈

自轉車燈、荷馬車燈、人力車燈は一燭光以下として且遮光すること、但し懷中電燈又はこれに準ずる點滅裝置を有するものに限り〇・三燭光以下に減光する時は遮光しないことが出来る

四、マツチ、ライター、煙草

等より發する光

右記の光の外寫眞撮影用閃光等は平常の儘

### 空 襲 管 制

一、屋外の燈火

消 燈

二、屋内の燈火

同 上

隱蔽又は消燈

隱蔽又は消燈

隱蔽又は消燈

隱蔽又は消燈

三普通車輛燈及携帯燈

消 燈

四、マツチ、ライター

煙草等より發する光

隱蔽又は消光

於

辭任唐

私儀

今回郡令依朝旨防護團警散  
班長ヲ辭任致し係此般取申居  
也  
昭和十三年五月二十一日

小林 廣

新防護團長 河田 達吉 殿

第一號表 (官公並署防護團用)

# 警報受領並傳達成績調查表

防空訓練  
第一日

五月十九日

警報受領 (傳達)  
主任者 氏名

朝里防護團朝里分團  
警報班長 小林 廣

番號	愛領種類	發令又ハ受領方法	主任者ノ受領時刻	最先ノ受領ニヨリ傳達ヲ開始セルモノ	傳達先	同傳達上方法	傳達完了時刻	受領ヨリ完了迄所要時間	摘	要
1	警報	朝里村長傳令	七〇一	七〇一	熊雄方面 文隆方面 山、上方面 市街地	全	七〇二	三〇八		
2	警報	朝里村長傳令	八〇一	八〇一	熊雄方面 文隆方面 山、上方面 市街地	全	八〇二	一〇五		
3	警報	朝里村長傳令	九〇一	九〇一	熊雄方面 文隆方面 山、上方面 市街地	全	九〇二	三〇五		
4	警報	朝里村長傳令	九〇一	九〇一	熊雄方面 文隆方面 山、上方面 市街地	全	九〇二	三〇五		
5	警報	朝里村長傳令	九〇一	九〇一	熊雄方面 文隆方面 山、上方面 市街地	全	九〇二	三〇五		

備考	8	7	6	5
一、本表ハ（イ）市町村役場（所）（ロ）各官廳（直接警報受領廳及其ノ端末迄ノ各機關、例ハ北海道廳警察署、巡查駐在所、派出所）（ハ）各防護團ニ於テ調査スルモノトス				
二、本記載例ハ綜合傳達ノ場合ニ於ケル警報受領ノ一例ヲ示シタルモノニ付綜合傳達ニアラザル場合ノ記載ニ付テハ所定ノ限度ニ於テ記入スルモノトス				
三、市町村長又ハ直接警報受領者迄ノ警報傳達ノ場合ハ主任者受領時刻欄迄記入シ以下余白ス				

# 警報受領並傳達成績調查表

防空訓練		警報受領 (傳達)		受領		警報		發令又ハ		受領		主任者ノ		最先ノ受		傳達先		同傳達上		傳達		愛領ヨリ		摘		要			
番號	種類	傳	達	官	方	法	受領時刻	始傳達ヲ開	傳	達	先	方	傳	達	上	完	了	時刻	完	了	時刻	所要時間	達	摘	要				
1	警	朝里村長	傳令	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分
2	解	朝里村長	傳令	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分
3	警	朝里村長	傳令	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分
4	空	朝里村長	傳令	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分	三	分

備考	5				6				7				8			
	解		空		解		警									
一、本表ハ（イ）市町村役場（所）（ロ）各官廳（直接警報受領廳及其ノ端末迄ノ各機關、例ハ北海道廳警察署、巡查駐在所、派出所）（ハ）各防護團ニ於テ調査スルモノトス	朝里村長		傳令		朝里村長		傳令									
	九一五〇		九一五〇		九一五〇		九一五〇									
二、本記載側ハ綜合傳達ノ場合ニ於ケル警報受領ノ一例ヲ示シタルモノニ付綜合傳達ニアラザル場合ノ記載ニ付テハ所定ノ限度ニ於テ記入スルモノトス	熊鷹方面		通氣所		熊鷹方面		通氣所									
	九一五〇		九一五〇		九一五〇		九一五〇									
三、市町村長又ハ直接警報受領者迄ノ警報傳達ノ場合ハ主任者受領時刻欄迄記入シ以下余白ス	山ノ上方面		傳令		山ノ上方面		傳令									
	九一五〇		九一五〇		九一五〇		九一五〇									
	市街地		傳令		市街地		傳令									
	九一五〇		九一五〇		九一五〇		九一五〇									
	文通方面		傳令		文通方面		傳令									
	九一五〇		九一五〇		九一五〇		九一五〇									
	山上方面		傳令		山上方面		傳令									
	九一五〇		九一五〇		九一五〇		九一五〇									
	市街地		傳令		市街地		傳令									
	九一五〇		九一五〇		九一五〇		九一五〇									

防空法並防空法施行令逐條說明

附 燈火管制規則

防空遞信案内

昭和十三年三月

(以印刷代謄寫)

# 防空法並防空法施行令逐條說明

北海道廳防空課

## 防空法

第一條 本法ニ於テ防空ト稱スルハ戰時又ハ事變ニ際シ航空機ノ來襲ニ因リ生ズベキ危害ヲ防止シ又 ハ之ニ因ル被害ヲ輕減スル爲陸海軍ノ行フ防衛ニ則應シテ陸海軍以外ノ者ノ行フ燈火管制、消防、 防毒、避難及救護並ニ此等ニ關シ必要ナル監視、通信及警報ヲ、防空計劃ト稱スルハ防空ノ實施及之ニ關シテ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル計畫ヲ謂フ

本條は防空及防空計畫の定義を掲げ、本法に基きて實施すべき事項を明にせられたるものなり。本法に所謂防空とは、來襲航空機に對し武力を以て戰鬪行爲を行ふ統帥の行動（陸海軍の行ふ防衛）を包含せず、航空機の來襲に因り生ズベキ生命、身體、財産に對する被害を防遏する輕減する爲、陸海軍以外の者の行ふ消極的の防空を指稱するものとす。從つて此の防空は軍防空に則應し、之と一體を爲して始めて國家防空としての完璧を期し得るものなり。而して防空をして軍防空に則應せしむるが爲には、陸海軍大臣は必要の事項を主務大臣に通知する如く勅令を以て定めらるゝものとす。

防空として實施する事項は本條に掲ぐるものゝ外、尚幾多の方法（偽裝、遮蔽）、設備（都市計畫法等に依る設備）、手段（防護



に關する人的組織）等を考慮し得べきも、之等は既存法規の改正運用、官公署の指導、國民の義勇奉公心に訴へて其の目的を達成し得るものと認めらるゝを以て、本法に於ては防空に關し最大限度にして而も現下の情勢に鑑み緊要不可缺の事項のみを規定せられたるものなり。尚防空は事重大にして廣汎なるも天災とは其の趣を異にし、豫め之に對する手段方法に付組織計畫するに於ては、危害防止、被害輕減の目的を達し得べき事項なるを以て、戰時又は事變を豫期して平時に於て實施の計畫を立て、又必要なる設備資材の整備計畫を樹立し置くことは極めて緊要なるを以て、特に防空計畫に關して規定せられたるものなり。

## 第二條 防空計畫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ）又ハ地方長官ノ指定スル市町村長防空委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ設定シ主務大臣又ハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

本條は防空計畫の設定者並に設定手續を規定せられたるものなり。

防空計畫を設定したる者は防空を實施する義務を有し、且防空の實施は組織的、綜合的、系統的に行はざるべからざるものなるを以て、其の實施者を限定して之に責任を負擔せしむると共に防空に對して統制を加へざるべからず。之が爲防空計畫の設定者は原則として普通行政廳たる地方長官及市町村長（地方長官の指定する）とせられたるものなり。

防空上、地方長官と市町村長との分擔すべき事項の範圍は勅令を以て之を定めらるゝものとす。而して數道府縣又は數市町村に關係ある防空計畫上必要なる事項は主務大臣又は地方長官の指示に依り、或は關係市町村間の協議に依り之を處理する等適當なる方法を講ずべきものなり。尚市内の區に付ては法律上獨立したる防空計畫設定者を認むることなく、區の防空計畫は市の防空計畫中に包含せしむることゝせられたり。官廳の防空計畫は地方長官又は市町村長の防空計畫中に之を包含せず。但し本條の防空計畫に於ても、官廳との協議に依り官廳營造物を利用する計畫を樹つるは支障なし。又防空警報の傳達等道府縣廳又は市町村の區域全般に互る事項に付ては特に官廳を除外する理由なし。

防空計畫を設定すべき市町村長を地方長官の指定に委ねられたるは、防空の性質上必ずしも全國の各市町村をして凡て防空計畫を設定せしむるの必要なきに依るものなり。而して指定市町村に於ては必ず市町村防空委員會を設置せしむるものとす。

防空計畫の認可を受けしむるは防空計畫の統制上、主務大臣又は地方長官の監督を必要とするを以てなり。即ち計畫設定に際し必要な事項は主務大臣又は地方長官より地方長官又は市町村長に指示し、以て其の統制に遺憾なきを期するものとす。

更に認可に際し、陸海軍其の他の官廳に關係ある事項に付ては内務大臣、地方長官より夫々協議を爲す如く勅令を以て定めらるゝものとす。

第三條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ規模大ナル事業又ハ施設ニシテ防空上特ニ必要アルモノニ付行政廳ニ非ザル者ヲ指定シテ防空計畫ヲ設定セシムルコトヲ得。

前項ノ防空計畫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

本條は特別の必要ある場合に於ては、主務大臣が行政廳に非ざる者を指定して防空計畫を設定せしむることを規定せられたるものなり。抑、防空は國の事務にして行政廳を掌るを通常とすと雖、規模大なる工場、鑛山等にして其の關係者又は關係區域廣汎にして市町村に匹敵し、市町村と獨立して計畫を樹立せしむるを必要とするもの、又は電氣、鐵道、航空等に關する事業の施設にして、關係地域廣汎に互り監視、通信、警報の傳達の計畫を樹立する上に於て特に必要と認めらるゝもの等あり。之等の所有者又は管理者をして防空計畫を説定せしむるは、防空に對する責任を明にする上に於て極めて適當と認めらるゝを以て、之等を獨立の防空計畫の主體たらしめむとするものなり。

第四條 防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲スベシ

本條は防空計畫の設定者に防空の實施並に設備資材整備の義務を課せられたるものなり。而して防空計畫の指定者とは第二條及第三條第一項に規定する者なり。

而も防空計畫は相當彈力性を有し且直に實施し得る様計畫せしむるものなるを以て、戰時に際し急に其の計畫を變更するが如き

ことなきを要す。但し設備資材の整備に關する計畫の如きは、其の執行年度割を變更して急速に實現を要するものもあるべし。尚防空の實施又は設備資材の整備は防空計畫に基くものなることを要するものなるも、防空計畫の認可に依り其の計畫せられたる事項の凡てが直に他の法令を無視して實現し得べきものに非ず、之が實現の爲には防空計畫の設定に併行して當該法令に依る認許可の手續を要するものなり。

第五條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニヨリ防空計畫ニ基キ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ヲシテ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲サシメ又ハ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ資材ヲ供用セシムルコトヲ得

本條は防空上特殊の考慮を拂ふべき施設の管理者又は所有者をして防空の實施に關し必要なる設備若は資材の整備を爲さしめ、又は防空の實施に際し必要なる設備又は資材を供用せしむとするものなり。防空を實施する爲必要なる設備資材の整備供用は、防空計畫の設定者に於て之を處理せしむることを要するものなるも、防空計畫の設定者の所有又は管理する設備又は資材の整備供用のみを以てしては不十分なるを以て、多人數を收容する百貨店、劇場、工場、鑛山、鐵道等に付ては防毒、避難、救護、燈火管制等に關する設備資材を特に整備せしむるの必要あり。又學校、病院等を避難所、救護所等に供用せしむるの要あり。之本條の規定を設けられたる所以なり。

尚設備資材の整備供用を命ずる場合に於て、他の法令に依り認許可を要する場合に於ては、防空の計畫設定に併行し其の手續を経べきこと既に述べたる所にして、施行令に於て明記せらるべきものとす。

設備資材の整備供用を命ずるは防空計畫に基かしむることとし、且其の命令強制は地方長官に限り其の權限を認め成るべく國民の權利を保障するに努む。而して之が強制は行政執行法に依るものとし、之等ノ整備供用に付ては別に損失補償及補助の規定を設く（法第十五條）

尚本條規定の管理者又は所有者と第三條規定の行政廳に非ざる者とは互いに相排斥するものとす。即ち第三條第一項に依る防空

計畫の設定者は自發的に整備を爲すべきものとす。

第六條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防毒、救護其ノ他防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ其ノ從業者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

本條は特殊技能を有する者をして防毒、救護等に從事せしめ、又第三條第一項の規定に依る防空計畫の設定者が其の從業者を防空の實施に從事せしめ得ることを規定せられたるものなり。

醫師、看護婦、藥劑師等をして防毒又は救護等に從事せしむることは防空の實施上必要缺べからざるところなるを以て特に規定を設け、且之が違反に關しては罰則を設けらる（法第十八條）

尚特殊技能者を使用し得る主體は地方長官に限らる。蓋し斯くの如き命令強制の權限は地方長官に專屬せしむるを適當と認められたればなり。

第三條第一項の規定に依る防空計畫の設定者は、其の從業員をして防空の實施に從事せしめ得べき當然の權利を有するものに非ず、而も從業者をして之に從事せしむるに非ざれば防空の目的を達する

ことを得ざるべし。茲に於てか特に本條第二項を設けられたるものなり。而して本項の反面解決として、從業者には防空實施に從事すべき義務を生ずれども、本條の違反に付ては別に罰則等の規定無きを以て道德説く上の義務に近し。尚特殊技能者又は從業者に對する實費辯償に付ては第十四條に規定せらる。

「勅令」に於ては特殊技能者の種類を限定し、正常の事由ある者には防空從事義務を免除することを規定せらるゝ筈なり。

第七條 防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本條は防空の實施の開始及終止に關し必要なる事項は勅令に委任する規定なり。

防空實施の開始及終止は國民の權利義務に重大なる關係あり、殊に本法に於ては國民は防空の實施に際し設備資材の供用を命ぜられ、又は土地、家屋、物件を收用若は使用せられ、又特殊技能者、従業者等は防空の實施に従事せしめらるゝものなるを以て、防空實施の始期及終期、實施區域、程度及實施を命ずる者は之を明ならしむること必要なり。

第八條 燈火管制ヲ實施スル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實施區域内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ秘匿スベシ

本條は燈火管制を實施する場合に於ける光の秘匿義務に關する規定なり。

本法中個々の防空行為に付規定したるは本條のみに限らる。燈火管制は防空の手段としては最も有効なるものと認められ、而も國民の社會生活に及ぼす影響の極めて甚大なるに依る。

尚燈火管制に關する必要な規定は「燈火管制規定」なるも、燈火に關する行政を掌る機關は種々なるを以て關係各省の共同省令と爲さむとす。

第九條 防空ノ實施ニ際シ緊急ノ必要アルトキハ地方長官又ハ市町村長ハ他人ノ土地若ハ家屋ヲ一時使用シ、物件ヲ收用若ハ使用シ又ハ防空ノ實施區域内ニ在ル者ヲシテ防空ノ實施ニ従事セシムルコトヲ得 行政執行法第五條及第六條ノ規定並ニ之ニ基キテ發スル命令ハ前項ノ規定ニ基キテ爲ス處分ニ依リテ負フ義務ノ履行ヲ市町村長ガ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

防空の實施は防空計畫に基き之に計畫せられたる人及物を利用するものなるも、時としては緊急の狀態に依り豫期せざる人及物を必要とすることあるべし。即ち計畫に豫定せる設備（避難所、救護所等）が破壊せられ、又は計畫に豫定せる者（救護班、防火班等）が負傷せる場合に於て、應急的に物又は人を必要とすることあるべし。之等の場合に地方長官又は市町村長は袖手傍觀することなく直に防空を實施し得

ざるべからず。是本條を設けられたる所以なり。

尚本條第二項は市町村長に代執行、執行罰、直接強制の権限を與へむとするものなり。

第十條 主務大臣ハ防空計畫ノ設定者ニ對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ其ノ從業者ヲシテ防空ノ訓練ニ從事セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ訓練區域内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ秘匿スベシ

本條は防空の訓練に關する規定なり。

現在行われつゝある防空の秩序統制に於て十分ならざる所あるのみならず、其の效果未だ勞力經費に伴はざるものあるを以て、訓練は總て防空計畫に基かしむると共に之に秩序と統制とを與へむとするものなり。是訓練を命ずる者を主務大臣とせられたる所以なりとす。然れども本條は防空計畫設定者自ら自己の計算に基く訓練を爲すことを妨ぐるものに非ず。唯其の訓練に對しては國庫補助を與へざるのみ。尚訓練は防空計畫の全部に付之を命ずると、或は其の一部に付之を命ずると、將に又全國又は一地方若は或る市町村、第三條第一項の設定者に命ずるとは任意と本條第二項は第三條第一項の規定に依る防空計畫の設定者防空訓練を行ふ場合に於て、其の從業者をして防空に従事せしめ得べきことを規定せられたるものなり。固より從業者は計畫設定者の下に任意に訓練することあるべしと雖、訓練を強化徹底する爲本條第一項の規定に依る訓練に付て本項を設けられたるものとす。本條第三項は燈火管制の訓練の規定なり。燈火管制訓練の場合に於ける光の秘匿程度、方法等は全體「燈火管制規定」を準用すべきも、通常の訓練に於ては平時の業務及事故防止を考慮せんとするものなり。

尚第三條第一項の計畫設定者本條第一項の命令に違反したる場合及第三項の場合に於て、光を秘匿せざる者に對しては行政執行

法の適用あるものとす。

第十一條 防空ニ關スル調査ノ爲必要アルトキハ主務大臣、地方長官又ハ市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係者ニ對シ資料ノ提出ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ關係アル場所ニ立入り検査ヲ爲サシムルコトヲ得但シ私人ノ邸宅並業務上ノ秘密に屬スル事項及設備ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ立入ル場合ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ場所ノ管理者ニ通知スベシ

當該官吏又ハ吏員第一項ノ規定ニ依リ關係アル場所ニ立入ル場合ハ其ノ證票ヲ携帯スベシ

本條は防空に關する調査又は監督に關する規定なり。

調査又は監督は防空の目的ツイ遂行上缺くべからざる準備行爲たるも、人民の自由權と交渉する所多きが故に特に本條を設け其の限度と方法を明瞭にせられたるものなり。

第十二條 第六條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事スル者之ガ爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ地方長官、市町村長又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ葬祭ヲ行フ者ニ對シ療養又ハ葬祭ニ要スル費用ヲ給スベシ

本條は法律上の義務として、防空の實施に従事する者が之ガ爲傷痍を受け、疾病に罹り、又は死亡したる場合に於いて之を救済する規定なり。

給與すべき費用は療養又は葬祭に要する費用にして、遺族、家族の扶助、救護に及ばざるものとす。其の理由は本條に掲ぐる以外の者に在りても、志願に依り防衛に當り其の爲に斃れたる者に對しては、市町村長に於て夫々考慮を拂ふべき者あるのみならず、防空法施行に伴ふ別動團體として防空協會等を設立し救恤の事に任ずべきものなるを以て、國家としては最小限度の考慮を拂へば足るべしと認められたるを以てなり。

第十三條 地方長官第五條の規定ニ依リ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ資材ヲ供用セシメ又ハ地方長官

若ハ市町村長第九條第一項ノ規定ニ依リ土地建物物件ヲ收用若ハ使用スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ損失ヲ補償スベシ

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日より、借用、收用又ハ使用ノ後六月ヲ經過シテ補償金額ノ決定ノ通知ヲ受ケザルトキハ其ノ期間經過シタル日より六月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條は設備資材の供用、土地家屋物件の收用使用に對する損失補償の規定なり。

尚補償金額決定は地方長官、市町村長をして之を行はしむることゝせられたり。一般の損失補償に於ては行政廳之を決定し、之に不服ある者は上級行政廳又は特別機關に上訴せしめ、最後に通常裁判所に出訴せしむることを通例とするも、本法に於ては時期を戰時事變年、且之を第一と第二の手續を決定するに適當なる行政廳無きを以て、直ニ通常裁判所に出訴せしむることゝせられたり。

第十四條 地方長官第六條第一項ノ規定ニ依リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシメ又ハ第三條

第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者第六條第二項ノ規定ニ依リ其ノ從業者ヲシテ防空實施ニ從事セシムル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ辨償スベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ實費辨償ニ之ヲ準用ス

本條は特殊技能者にして地方長官の命令により防空の實施に從事したる者及第三條第一項の計畫設定者の從事者に對する實費辨償の規定なり。

上記の者に對しては防空實施に從事する義務を命ずること前述の如くなるが、特殊技能者は防空實施に從事せざる場合に於いては夫々報酬ある義務に服する者なるを以て、特に防空の實施に從事せしむるときは其の勞務に相當する辨償を爲すを適當とすべ



く、第六條第二項の従業者も當然其の業務の内容とする事項以外に防空の實施に任ずるものなるを以て、之に對しても實費辨償を補償するを必要なりと認められたるに依る。

第十五條 防空計畫ノ設定、防空ノ實施、防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備、第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練又ハ第十二條ノ規定ニ依ル給與ヲ爲スニ要スル費用ハ地方長官之ヲ爲ス場合ニ於テハ北海道又ハ府縣、市町村長之ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村、第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者之ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ者ノ負擔トス 特殊施設ノ管理者又ハ所有者第五條ノ規定ニ依リ設備又ハ資材ノ整備ヲ爲スニ要スル費用ハ其ノ者ノ負擔トス

本條は防空に關し必要な經費の負擔區分を明にせられたるものなり。

防空は國政事務なりと雖も、地方的又は個人的利益の維持をも亦併せて目的とするものなるを以て、道府縣、市町村、第三條の計畫設定者及特殊施設の管理者をして防空の經費を負擔せしむるものなり。惟ふに防空の目的として敵の空襲目標たるべき大都市又は大工業地の防護に存する場合多しと雖も、防空を實施する國體又は個人自身も亦或程度防空の利益を受くるものにして、若し防空を行はざりせば自らも空襲の危險に脅かさるゝ場合多かるべきを以て、或程度費用を分擔せしむることは不合理ならざればなり。

## 第十六條 防空委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本條は防空委員會の組織、權限及費用に關する規定を勅令に委任せむとする規定なり。即ち別に官制を以て之を定めらる。

防空委員會は中央、道府縣及市町村の三種とす。防空委員會に要する費用は國道府縣又は市町村の負擔とす。

## 第十七條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ諸費ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ依リ北海道、府縣、市町村又ハ第三条第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ負擔スル費用

二 第十五條第二項ノ規定ニ依リ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ノ負擔スル費用

三 防空委員會ニ關シ北海道、府縣又ハ市町村ノ負擔スル費用

本條は防空に要する費用に對する國庫補助の規定なり。

國庫補助を二分の一以内と爲せるは補助の限度を明確にせるものなり。而して全額補助を認めざるは、防空のことたる國家事務たると同時に地方防衛乃至及個人防衛の性質を多分に有するを以てなり。勅令に於ては補助の交付標準及方法を明示せらるゝ筈なり。

第十八條 特殊技能ヲ有スル者故ナク第六條第一項ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令ニ從ハザルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條は特殊技能者故なく第六條第一項の規定に依る地方長官の命令に従はざる場合を處罰せむとするものなり。急病患者の手術等正當の事由あるときは素より違法性を阻却するものとす。

特殊技能者のみを特に處罰するは餘人を以て代へ難き者にして、而も防空の實施上不可缺のものたるに依る。醫師法に依るも醫師は診察の需に應ずる義務を有するが、略之と趣旨を同うするものなり。

第十九條 第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

故ナク第十一條第一項ノ規定ニ依ル資料ノ提出ヲ拒ミ若ハ虚偽ノ資料ヲ提出シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ立入検査ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者亦前項ニ同ジ

本條は燈火管制實施の際に於ける光の秘匿義務違反及調査の妨害等に關する罰則なり。

第二十條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

本條は町村組合及北海道一級、二級町村制、島嶼町村制を施行する地に關する規定なり。

第二十一條 國ニ於テ管理スル施設ニ關スル防空ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

本條は國の官廳の廳舎又は營造物の防空に關しては勅令を以て定むることを規定せられたるものなり。

防空法は防空計畫設定の主體を原則として地方長官、市町村長とし國の中央官廳又は特別官廳を以て其の主體と爲す ことなく、又國に於て管理する施設に付本法を直に適用するは不適當なるを以て本條を設けられたり。但し防空の性質上一般の防空と連絡協調を保ちて統制規律するを要するを以て、之に規律の根據を與へて全國土防空體系の完璧を期すること必要なり。

「國に於て管理する施設」とは官廳廳舎、鐵道、電信、電話、諸學校、病院、刑務所、博物館、圖書館、試験所、工場等の諸施設にして地方長官、市町村長又は私人の管理に屬せざるものを謂ふ。

第二十二條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要スルアルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

本法を外地に適用することに關する規定なり。

本法中直に外地に適用し難き事項に關し必要なる變更は勅令を以て之を規定せらるゝ筈なり。

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十二年勅令第五百四十八號ヲ以テ昭和十二年十月一日ヨリ施行）

# 防空法施行令

(註 本文中「法」とあるは「防空法」を指すものなり)

第一條 地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ）ハ道府縣ノ全區域又ハ數市町村ノ區域ニ

互リ計畫スベキ事項其ノ他必要ト認ムル事項ニ關シ防空計畫ヲ設定スベシ

前項ノ防空計畫ハ道府縣防空委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ設定シ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ

防空法第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市町村長ハ市町村ノ區域内ニ於テ計畫スベキ事項其ノ他必要ト認ムル事項ニ關シ防空計畫ヲ設定スベシ

前項ノ防空計畫ハ市町村防空委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ設定シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

本條は法第二條を承けて地方長官又は地方長官の指定する市町村長の設定する防空計畫に付規定したるものなり。地方長官の設定する防空計畫と市町村長の設定する防空計畫との區分に關しては、本條に於ては地方長官が先づ道府縣の全部又は數市町村に互る大綱的事項を定め、之に基き市町村の區域に於て市町村長が細目的事項を定むべき趣旨を明にしたるに止まり、他は悉く運用に委ねたるも之を少しく敷衍せば左の如し。

## 地方長官の設定する防空計畫の概目

- 一 監視の配置及編成に關する事項
- 二 地方長官の爲す防空の實施に必要な通信に關する事項
- 三 道府縣の區域全般の警報の傳達に關する事項
- 四 燈火管制及消防に關する事項、但し地方長官の定むる所に依り市町村長の計畫すべきものを除く
- 五 防毒、避難及救護に關する大綱的事項
- 六 道府縣の營造物に關する事項

- 七 地方長官の爲す防空の實施に必要な人員の配當及其の補充に關する事項
- 八 前各號に掲ぐるものゝ外地方長官に於て計畫するを必要と認むる事項

市町村長の設定する防空計畫の概目

- 一 市町村長の爲す防空の實施に必要な通信に關する事項
- 二 市町村内の警報の傳達に關する事項
- 三 燈火管制及消防に關する事項にして地方長官の定むるもの
- 四 防毒、避難及救護に關する細目的事項
- 五 市町村の營造物に關する事項
- 六 市町村長の爲す防空の實施に必要な人員の配當及其の補充に關する事項
- 七 前各號に掲ぐるものゝ外市町村長に於て計畫するを必要と認むる事項

次に本條に於て地方長官の設定する防空計畫及市町村長の設定する防空計畫に付夫々意見を徴すべき防空委員會及認可を爲すべき者を明にしたり。

以上により概ね明瞭なる如く、監視哨の配置及之に伴ふ通信網の構成は地方長官の責任事項にして、地方長官としては之が細部事項に關しては警察署長及市町村長に命ずるものとす。又防空計畫の適用期間に關しては規定を缺くも、防空計畫は其の内容よりして防空の實施に關する計畫と防空實施に要する設備資材の整備に要する計畫との二種に區分せらるべし。

前者は戰鬪計畫に類する計畫なるを以て原則として毎年更新せられるべきものにして、後者は設備資材の性質に依り毎年度の計畫の外に長期に亙る計畫を必要とするものなり。

第二條 防空法第三條第一項ノ事業又ハ施設ハ工場、鑛山、鐵道、軌道、無線電信、無線電話又ハ電氣、瓦斯、海運若ハ航空ニ關スル事業若ハ施設トス

本條は法第三條の規模大なる事業又は施設にして防空上特に必要あるものに付其の範圍を定めたるものなり。

之が指定は當該事業又は施設の防護上特に必要ある場合、又は監視、通信、警報、燈火管制等に關し地方長官又は市町村長に於て防空計畫を設定するに付、當該事業場又は施設が特異の地位（數府縣の地域に跨る）に在る場合、特に重要な内容（地方長官及市町村長の計畫に包含する能はざる）を有する場合に止むべきも、之が指定及之に基く防空計畫の設定の細目に關しては、指定の相手方指定を受けたる者の變更の場合の處置計畫の内容、設定の手續、地方長官、市町村長其の他との連絡方法等別途詳細に考究を要するものとす。

### 第三條 防空法第五條ノ規定ニ依リ整備ヲ爲サシムルコトヲ得ベキ設備又ハ資材ハ左ノ各號ニ掲グルモノトス

- 一 電氣工作物、工場、鑛山、鐵道、軌道、診療ノ類ニ付テハ燈火管制ニ關シ必要ナルモノ
- 二 水道、下水道、瓦斯工作物、石油タンク、工場、鑛山ノ類ニ付テハ消防ニ關シ必要ナルモノ
- 三 劇場、診療所、百貨店、地下ニ敷設シタル鐵道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建築物ノ類ニ付テハ防毒、避難又ハ救護ニ關シ必要ナルモノ

防空法第五條ノ規定ニ依リ供用セシムルコトヲ得ベキ設備又ハ資材ハ左ノ各號ニ掲グルモノトス

- 一 高層建築ノ類ニ付テハ監視ニ關シ必要ナルモノ
- 二 號報器ヲ有スル施設ニ付テハ警報ニ關シ必要ナルモノ
- 三 學校、集會場、劇場、診療所、百貨店、地下ニ敷設シタル鐵道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建築物、避難上有効ナル空地ヲ有スル工場其ノ他建築物、運動場ノ類ニ付キテハ防毒、避難又ハ救護ニ關シ必要ナルモノ

本條は法第五條に依り特殊施設に對し設備又は資材の整備又は併用を命じ得る範圍を明にしたるものにして、即ち先づ第一

項に於ては

一 燈火管制に關する設備資材は元來法第八條又は第十條に基く燈火秘匿義務に隨伴して當然備付を要するものにして、例へば一般市民の家庭に於ける減光、遮蔽の設備の如きは右義務の履行上當然必要とするものに屬し、特に法に基きて之を命ずるが如きは法の趣旨にあらず。特殊施設に關しても一般的には同様とす。然るに或種特別の施設に於ては特に完全なる設備を爲すにあらざれば燈火の秘匿を徹底し得ざる憾あるを以て、この種のものに限り本條に依り設備を命ぜんとするものなり。即ち本號列舉の特殊施設にありても、燈火秘匿義務より生ずる當然の秘匿設備は之を命ぜらるゝ迄もなく整備するを要し、唯、例へば街燈に於ける開閉器の設備の如く多數に上がるものに付ては實情に依り本條を活用し得ることゝし、又特殊の工場に於ける例へば爐を有する部分の如き完全なる設備を爲すにあらざれば秘匿困難なるもの、鑛山に於ける特殊の光、鐵道、軌道に於ける多數或は殊に特殊の光、診療所（診療所取締規則第一條参照、病院を含む）に於ける特殊の手術室の如き、有事の際特に光度大なる光を要するもの等に限り燈火管制上必要なる設備又は資材

（消燈、減光、遮蔽裝置）を命じ得る趣旨なり。

二 水道、下水道に關しては消防水利上必要なる設備、例へば水道に於ける消火栓、下水道に於ける局部的堰又は貯水設備並に工場、鑛山の如き特に國家資源の保持上重要なる施設、又は發火延燒の危険多き施設に於ける消防設備（消防ポンプの備付等）を命じ得ることゝしたるものなり。

三 劇場、診療所、百貨店、地下鐵道、地下室の如き特に多人數の公衆の集合する箇所、又は防護避難所又は救護所として供用し得るものに付防毒、避難又は救護に關し必要なる設備資材、主として室の防毒裝置の如きを爲さしむる趣旨なり。

以上設備資材の整備に付きては法第十五條第二項に依り、其の費用は當該施設の管理者又は所有者の負擔たると共に、之に對しては同第十七條に依り原則として國庫の補助あるものなるを以て、一面に於て當概設備資材の整備が當該施設にとりても有利なるものなるべきと同時に、國庫補助の交付の見込みなきものに付ては特に濫りに之に命ずるは妥當にあらず。

次に第二項に於ては

一 監視哨に充つる爲必要な箇所は原則として當該土地建物の所有者又は管理者との協議に依り之を充用すべく、特に必要あるときは高層建築物の類に付本條に依り供用し得るものなり。條文に明なる如く單に供用し得るに止まり、協議に依る外、法律上の設備資材の整備を命ずることは認められず、蓋し設備を要するとせば原則として防空計畫の設定者に於て之を爲すべし、當該施設の管理者、所有者に之を負擔せしむるは適當ならず。

二 警報の傳達に付ては將來防空計畫の設定者に於て比較的少數にして強力なる警報器を設くべきを理想とすべきも、當分號報器を有する施設（サイレンを有する工場等）に付之を供用して之が補充たらしむるを必要と認め本條を設けたり。單に供用に止まり設備を命じ得ざる點に付ては前號と同じ。

三 防毒室、避難所、救護所に供用せしめ得る施設を列舉したるも、第一項第三號と對比せば學校、集會場、空地を有する建築物、運動場の如きは供用を爲い得るに止まり設備を命ずることを得ざるものとす。

法第五條と法第三條との關係に付ては、法第三條の防空計畫の設定者に法第五條に依り設備資材の整備を命ずることは、防空計畫の設定上齟齬を來すことあるべきを以て原則として之を爲さざることとし、法第三條に依る防空計畫に於て計畫の對象とならざるものに關してのみ必要あらば法第五條を適用し得る様運用するの要あり。例へば法第三條に依る防空計畫の設定者たる地方鐵道に於て、當該防空計畫上避難所となすべきものに付法第五條を適用するは不都合を生ずべく、同時に右地方鐵道の所有地と雖も當該防空計畫に於て何等豫定せざる空地を地方長官に於て供するが如きは妨げなし。

尚法第五條に依る設備資材の整備供用に關しては、他の法令に依る認可、許可其の他の手續を要するものに付ては夫々其實施に當り手續を要するものとす。

本條に於て私設通信の供用を規定しあらざるは、私設通信と雖も遞信官署の監督に屬しあると、之が使用に關しては豫め計畫し公衆通信に加入の手段を講じ置くを以て有利且實用的なりとする見解に基くものなり。

又本條は多くは補助を伴ふものにして濫りに命ずること能はざるものにして、之が爲緊急且重要な監視、警報、燈火管制、消防等に付 不取敢考慮せらるべく、防毒、避難、救護等に關しては後廻しとなるべきものなり。



第四條 防空法第六條第一項ノ特殊技能ヲ有スル者ハ左ノ各號ニ掲グル者トス

一 醫師、齒科醫師、獸醫師、藥劑師及看護婦

二 防空ニ關スル技能ニ付特殊ノ教育訓練ヲ受ケタル者ニシテ内務大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官ノ定ムルモノ  
ノ防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ従業員ニシテ其ノ防空計畫ニ基キ防空ノ実施ニ  
從事スベキモノ其ノ他正當ノ事由アル者ハ同法第六條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事セシムルコ  
トヲ得ズ

本條は特殊技能者の範圍を定めたものにして第一號は特に説明の要なし。第二號は將來防空に關する特殊の教育訓練を施すべき施設が漸次整備せらるゝに至りたる場合、又特殊の軍隊教育に於て例へば防空監視に關する特別の教育を受けたる者の如きに付、地方長官に於て内務大臣の認可を受け右施設又は資格に關し一定の事項を定め、之に該當する者に對し防空の實施に從事すべきことを命ぜんとするものなり。監視、防毒の作業の如きに該當するもの多かるべし。特殊の軍隊教育を受けたる者の指定に關しては陸海軍司令官に於て特に指導を要するものとす。

第二項は法第三條の防空計畫の従業者にして當該防空計畫に於て活動すべく豫定せらるゝ者に對し、法第六條に依り防空の實施を命ずるときは防空計畫の運用に支障を來すべきを以て、之等のもの及醫師其の他にして現に診療に従事し之を抛擲し難きもの等、正當の事由ある者に對しては法第六條に依る強制を爲さざる趣旨なり。同様に地方長官又は市町村長の設定する防空計畫に於て活動を豫定せらるゝ者に對して濫りに同條に依り防空の實施を命ずることは差控ふるを適當とす。

第五條 防空ノ實施ノ開始及終止ハ内務大臣之ヲ命ズ

前項ノ命令ハ關係アル地方長官及防空法第三條第一項ノ防空計畫ノ設定者ニ對シテハ内務大臣、關係アル市町村長ニ對シテハ内務大臣ノ通知ニ依り地方長官之ヲ發ス

内務大臣第一項ノ命令宇ヲ爲スニ付テハ其ノ時期及區域ニ關シテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ通知ニ依ルベ

シ

本條は防空の實施の開始及終止の方法に關する規定にして、開始及終止は内務大臣之を命ずることとし、命令示達の方法としては内務大臣は先づ地方長官及法第三條の防空計畫の設定者に通知し、地方長官は之に基き關係市町村長に通知するものとす。而して内務大臣が右の命令を發するに付ては陸軍大臣又は海軍大臣よりの通知に依るなり、蓋し軍防衛系統の認定に依るを適當とすればなり。内務大臣の命令示達の方法の詳細、地方長官、市町村長が命令を受けたる際に於ける軍其他關係方面との連絡等に關しては豫め協定を遂げ、防空計畫其他に於て詳細に定め置くの要あり。本條に依る開始命令の發せられたるより終止命令の發せらるゝ迄の期間が即ち防空實施の時期にして、法第五條、第九條に於て「防空ノ實施ニ際シ」と謂ふは此の時期を指し、法第六條、第八條、第九條、第十二條、第十三條、第十四條の「防空ノ實施」とは此の期間中の實施行為を謂ひ法第十五條の「防空ノ實施ノ費用」は此の期間中實施行為に要したるものを謂ふものなり。

第六條 前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ開始命令アリタルトキハ防空計畫ノ設定者ハ監視及之ニ伴フ通信ニ關シテハ直ニ之ヲ實施シ防空上必要ナル其ノ他ノ事項ニ關シテハ其ノ準備ヲ爲シ適宜之ヲ實施スベシ 監視及之ニ伴フ通信ハ前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ終止命令アル迄之ヲ繼續スベシ

本條は防空の實施の順序の大綱を規定し、前條の開始命令に依り直に（直にと云ふも開始命令ありたる時より配置完了迄の時間に付ては防空計畫に定め置くの要あり）監視之に伴ふ通信を實施するものとす（監視とは航空機の來襲の監視を謂ひ、所謂防護監視は消防、防毒等各防護行為に隨伴するものとしたものなり）。其の他の事項の内、警報に付いては第七條に規定あり、燈火管制に關しては別に燈火管制規則の定むる所に依るべく、其の他消防、防毒、避難、救護は性質上其の必要を生じたる時之を行ふべきは當然なるを以て、開始命令ありたるときは之等の準備手配を行ひ、其の必要生じたるときは適宜實施するものとす。尤も其の詳細に付ては防空計畫に明にするを適當とすべし。

終止に付ても亦同様にして、監視及之に伴ふ通信は終止命令ある迄之を繼續するものとす。但し其の繼續の程度に付ては事態の

變化に依り自ら移動あるべく、監視哨の配置を増減（甲、乙、丙程度の如し）するに付ては軍との連絡關係等に付明確に防空計畫中に定め置くの要あり。即ち防空の實施の開始及終止は國民の權利義務に重大の關係を有するを以て、前條及本條を通じ其の命令系統、方法及實施の順序に關し規定したるものなり。

## 第七條 防空ヲ實施スル場合ニ於テ航空機ノ來襲ニ關シテハ各號ノ區分ニ依リ防空警報ヲ發ス

### 一 警戒警報 航空機ノ來襲ノ虞アル場合

### 二 警戒警報解除 航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合

### 三 空襲警報 航空機ノ來襲ノ危険アル場合

### 四 空襲警報解除 航空機ノ來襲ノ危険ナキニ至リタル場合

當該區域ノ防衛ヲ擔任スル防衛司令官、師團長、要塞司令官、鎮守府司令長官若ハ要港部司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）又ハ其ノ指定スル者ノ發スル防空警報ヲ以テ前項ノ防空警報トス

本條は防空警報に關する規定にして、警戒警報、同解除、空襲警報、同解除を總稱して防空警報として陸海軍司令官又は其の指定する者之を發するものとす。警報は即ち警戒の報知にして行爲の命令にあらず。夜間に於ては警報に基き燈火管制を實施すべきも、燈火秘匿義務は法律及之に基く命令より直接生ずるものにして、單に其の義務發生の時期を右報知に繫らしめたるものなり。警報の傳達方法は防空計畫に於ける重要事項の一たること勿論にして、防空計畫の設定者は之に基き傳達を爲すべきものなるも、之が爲には警報を發すべき者の區域の分擔、傳達の系統等を明確に定め置くの要あり。

尚警報を周知せしむる方法に付ても計畫を明にするの要あるも、特に之に基き法令上の義務を生ずべき燈火管制との關係に付ては警報規定若は燈火管制規則中に明にせらるべし。

陸海軍司令官の發したる防空警報を受授する手段に付ては何等從來と異なることなく、之が具體的方法に付ては關係者間に於て協議の上明確に定め置くを要するものなり。之が爲各地區に於ける警報發令官を速に關係官署に通知し連繫に隙なからしむること必要なり。

第八條 防空法第十一條第一項ノ關係者ハ第二條ニ掲グル事業若ハ施設又ハ第三條ニ掲グル特殊施設ノ管理者若ハ所有者トシ關係アル場所ハ此等ノ者ノ管理又ハ所有スル土地及建物其ノ他ノ工作物トス

防空法第十一條第三項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

本條は法第十一條に依り防空に關する調査の爲必要な資料ノ提出を命じ、又は立入検査を爲し得る關係者及關係ある場所の範圍を限定し竝に立入検査を爲す場合の證票に付規定したるものなり。

軍に於て本條に基く立入検査を屢々行ふ必要は豫想し得ざるも、豫め之等の立入検査を爲すべき者を定め陸軍大臣に申請して立入検査證の交付を受け置く必要あるものとす。

第九條 防空法第十二條ノ規定ニ依ル療養又ハ葬祭ニ要スル費用ハ防空ノ實施ニ從事セシメタル者ニ於テ之ヲ給スベシ

前項ノ費用ノ支給ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官又ハ防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ニ在リテハ内務大臣、市町村長ニ在リリテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムベシ

本條は法第十二條の療養又は葬祭に要する費用に關する規定にして、其の費用の額、支給方法等に付ては地方の實情に適應せしむるの要あるを以て、夫々内務大臣又は地方長官の認可を受けて定めしむることゝなれり。

第十條 防空法第十三條ノ規定ニ依り補償スベキ損失ハ通常生ズベキ損失ニ限ル

本條は第十三條を承け損失補償の限度を定めたるものにして、即ち補償は客觀的損失に付てのみ之を考慮し、相手方の主觀的事實に依る斟酌は之を爲さざることを明にしたるものなり。例へば設備資材の供用の客觀的使用料、收用使用の場合に於ける其の物の客觀的價值、使用料竝に家屋の場合に於ける居住者の通常の移轉料の如きものゝみに止めんとす。

尚補償額の決定に付特に決定の評議機關を設くるが如きは本條の適用ある場合の事態の性質上之を爲さず、情況に依り適宜の處

置によるものとす。

第十一條 防空法第十四條ノ規定ニ依ル實費辨償に關シ必要ナル事項ハ地方長官又ハ同法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

本條は法第十四條に依る實費辨償の額、支給方法等の事項も亦第九條の場合と同様地方の實情に適せしむる爲適宜地方に於て定むべきものとし、其の定むるに付ては全國的統制の必要上内務大臣の認可を受けしむることゝなしたり。

第十二條 防空法十七條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ支出精算額ニ對シ之ヲ爲ス但シ寄付金其ノ他收入アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

前項ノ規定ニ依リ交付シタル國庫補助金ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

一 設備又ハ資材ヲ廢棄又ハ變更シ當初ノ目的ヲ達シ得ザルニ至リタルトキ

二 補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

本條は法第十七條に基き補助金の交付は精算補助なること、及第二項各號該當の場合には既交付補助金の全部又は一部の返還を命じ得ることを規定したり。

第十三條 防空法第三條及第十條ノ主務大臣ハ内務大臣、同法第十一條ノ主務大臣ハ内務大臣、陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

本條は本令中特に明示したる場合（第一條）の外、法律に謂ふ主務大臣を明にしたものにして、即ち法第三條の防空計畫の設定者の指定及其の計畫の認可、法第十條の訓練の命令は内務大臣之を爲すべきこととし、法第十一條に依る資料の提出を命じ又は

立入検査をせしむるに付ては陸海軍大臣も亦主務大臣なることゝしたり。

第十四條 陸海軍司令官ハ監視網構成ノ概要ニ付及陸海軍ノ行フ防衛ノ必要上使用ヲ禁止又ハ制限スルコトアルベキ土地建物ニ付防空計畫ノ設定上必要ナル事項ヲ防空計畫ノ設定者ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ之ニ準據シテ防空計畫ヲ実施スベシ

本條は防空計畫の設定を陸海軍の行ふ防衛に則應せしむる爲、陸海軍司令官より防空計畫の設定者に通知すべき事項の規定にして、防空計畫の設定は右通知に準據するの要あるものとす。即ち其の事項左の如し。

一 監視網構成の概要、監視隊本部位置及監視哨を置くべき概略の位置並に其の個々の監視哨の各監視隊本部への連絡系統の主要を謂ふ。

二 陸海軍の行ふ防衛の必要上使用を禁止又は制限することあるべき土地建物に付防空計畫の設定上必要なる事項防空の實施に當り軍事上の必要より使用すべき土地建物を防空計畫中に於て利用する様豫定するときは、相互に不都合を生ずべきを以て斯かる不都合を除去する爲豫め通知し置くものとす。

以上は何れも秘密事項なるを以て取扱ひに關し注意せしむるを要する者とす。

第十五條 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ陸海軍ノ行フ防衛ニ則應セシムル爲必要アル事項ニ關シテハ内務大臣ハ陸軍大臣及海軍大臣ニ、地方長官ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ

本條は國民防空を軍の防衛に則應せしむる爲の規定にして、防空計畫の設定に當りては軍當局と緊密なる連絡を爲し適宜事前の打合協議等を行ふべきも、其の決定の認可に當りては夫々則應事項に關しては陸海軍大臣又は陸海軍司令官に協議せしめ遺漏なきを期せんとするものなり。

則應せしむる爲必要なる事項の何たるやに付ては具體的判斷に俟つを要するも、監視、通信、警報、燈火管制に關する事項を

主とすべく、消防、防毒、避難、救護等に關しては其の關係比較的少しと云ひ得べし。尚地方長官の協議すべき陸海軍司令官に付ては重複を來し繁雜を生ぜざるは様地域的に明確に定むるを要し、之に關しては既に示したるものに依るものとす。

## 第十六條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ内務大臣ハ關係各大臣ニ、地方長官ハ關係地方官廳ニ協議スベシ

一 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ當該計畫中國ニ於テ管理スル土地家屋物件ノ使用ニ關スル事項

二 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル事項

三 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル指定及同條第二項ノ規定ニ依ル認可

四 設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル防空法第五條ノ規定ニ依ル命令

五 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ニ對スル同法第十條第一項ノ規定ニ依ル命令

本條は關係官廳との關係を規定したり。協議を要する事項左の如し。

一 防空計畫中、國に於て管理する土地、家屋、物件を使用する計畫あるときは、其の使用に當つては國有財産法其の他に依る正規の手續を要すること勿論なるも、豫め協議に依り右手續に當つて圓滑に實施に移し得る様考慮するの要あり。

二 設備又ハ資材の整備又ハ借用に付ても其の實施は他の法令の支配を受くるを以て豫め協議し置くを必要とす。

三 法第三條第一項の規定に依る防空計畫の設定者の指定に付ては、各省大臣の監督に屬する事業又は施設に付ては當該大臣に協議するを適當とし、其の計畫の認可に付ても同様とす。

四 防空計畫に於ては設備又ハ資材の供用に關しては必しも詳細具體的の事項に迄及ばざるべきを以て、第二號と重ねて協議を爲すものなり。

五 訓練を命ずるに關しての協議なり。

第十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一

町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズキ者ニ之ヲ適用ス

本條は町村組合及北海道一級町村制、二級町村制、島嶼町村制を施行する地に關する規定なり。

## 附 則

本令ハ防空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 燈火管制規則

(昭和十三年四月四日 内務、陸軍、海軍、遞信、鐵道、省令第一號)

第一條 燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防空法第八條及第十條第三項ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ハ本令ノ

期ムル所ニ依ル

第二條 燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ



燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス

第三條 警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ秘匿ハ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ掲グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四條 第一號表ノ屋外燈（標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク）ニシテ地方長官ノ指定スルモノハ其ノ定ムル定間日没ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示スベシ

第五條 左ノ各號ニ掲グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

一 建築物、車輛、船舶、隨道、地下道等ノ内部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ

二 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ地方長官ノ指定スル光

第六條 左ニ掲グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

一 消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二 特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第七條 第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令

官（以下陸海軍司令官ト稱ス）ノ通知ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）之ヲ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第八條 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可又ハ指定ハ地方長官之ヲ爲スモノトス

第九條 第一號表、第二號表、第四號表、第五號表及第七號表中隱蔽ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆ヲ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルコトヲ謂フ

第一號表乃至第五表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限度ノ距

離ヲ謂フ

第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第一號表、第三號表、第四號表、第五號表及第七號表中透視距離ト稱スルハ光源及其ノ反射光等一切ノ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ地方長官又ハ警察署長ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ但シ豫メ陸海軍司令官ト協定シタル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ヲ爲サントスルトキ
- 二 第四條第一項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントスルトキ
- 三 第五條第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキ
- 四 空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキ

附 則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

附表

第一號表	一般屋外燈ノ光ノ秘匿ノ程度
第二號表	一般屋内燈ノ光ノ秘匿ノ程度
第三號表	一般交通關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度
第四號表	鐵道軌道關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度
第五號表	船舶關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度
第六號表	航空關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度
第七號表	火焰其ノ他ノ光ノ秘匿ノ程度

第一號表 一般屋外燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種 類	警 戒	管 制	空 襲 管 制	遮 光 條 件
	乙	甲		
廣告看板 裝飾燈類 其ノ他之ニ類スル燈火	消燈	消燈	消燈	地表上三〇〇米以上ノ何レノ 點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光 等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
標識燈類 其ノ他之ニ類スル燈火（例 各種機器作動表示燈、防空ノ 實施及訓練上必要ナル各種標 識燈等）	減光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト	
街路燈類 橋梁燈（橋梁表示燈ヲ除ク） 其ノ他之ニ類スル燈火（例 街路照明ヲ兼スル電車柱燈、 電柱街燈、投光器ヲ使用スル 街路照明燈等） 註隊道内燈火及街路ノ一部 ヲ成ス廣場ノ照明燈ヲ含ム	減光且遮光 街路面一〇〇平方米ニ付一 光・五燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置 ヲ講ジタルモノハ許シ得ル處置 ヲ受ケルモノハ最大照度受 ケルコトヲ得	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置 ヲ講ジタルモノハ許シ得ル處置 ヲ受ケルモノハ最大照度受 ケルコトヲ得	
門軒燈類 其ノ他之ニ類スル燈火（例 標識照明燈、玄關「デレス」 燈等）	消燈 但シ必要ニ應ジ街路燈類ニ 代用スルモノハ該燈類ニ關 スル制限内ニ於テ殘置スル コトヲ得	消燈 但シ必要ニ應ジ街路燈類ニ 代用スルモノハ許シ得ル處置 ヲ受ケルモノハ最大照度受 ケルコトヲ得	消燈 但シ必要ニ應ジ街路燈類ニ 代用スルモノハ許シ得ル處置 ヲ受ケルモノハ最大照度受 ケルコトヲ得	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端 ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ 向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ 角ヲナスコト
屋外作業 燈類 露店燈 註作業ニ必要ナル屋外燈火 必要ナル燈火ヲ含ム	減光且遮光 作業面一〇〇平方米ニ付三 燭光以下トスルコト 一店一燈トシ八燭光以下ト スルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置 ヲ講ジタルモノハ許シ得ル處置 ヲ受ケルモノハ最大照度受 ケルコトヲ得	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置 ヲ講ジタルモノハ許シ得ル處置 ヲ受ケルモノハ最大照度受 ケルコトヲ得	
特別屋外 燈類 公園燈 庭園燈 社寺屋外燈 廣場照明燈 各種運動競技娛樂場屋外照明 燈 其ノ他ノ種類ニ屬セザル屋 外燈火（例 露營燈、墓地燈、 屋上燈、祭禮用燈火等） 註側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ 含ム	消燈 但シ公園燈、社寺屋外燈、 廣場照明燈ニ限リ交通治安 維持ノ必要アル場合一面積一 〇〇平方米ニ付一〇・二燭光 以下トスルコトヲ得	消燈	消燈	

一般屋内燈ノ光ノ祕匿ノ程度

種	類	警 戒 管			室 襲 管 制	遮 光 條 件
		乙	甲	制		
店先燈類	店先裝飾燈 店先吊下燈 店先陳列箱照明燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註 店先トハ戸締面ノ外部ヲ謂フ	消燈	消燈	消燈		
普通屋內燈類	店先燈類以外ノ屋內燈	隱蔽 減光且遮光 (イ)室ノ廣サ三平方メートルニ付一〇燭光以內、一燈五〇燭光以下トスルコト (ロ)室ノ廣サ三平方メートルニ付一燭光以內、一燈五燭光以下トシ光源ト開口部トノ距離ヲ一、八米以上トスルコト 漏光制限 許可ヲ受ケ漏光面ヲ透過スル光束ヲ一平方メートルニ付三「ルーメン」以下トスルコト	隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方メートルニ付一〇燭光以內、一燈二燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽		乙(イ)及甲ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト 乙(ロ)ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ノ外側ニ於テ水平以上ニ向ハザルコト

第三號表

一般交通關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種	類	警 戒	管 制	空 襲 管 制	遮 光 條 件
交通信號	交通整理信號燈 交通整理手信號燈 其ノ他之ニ類スル燈火	乙 平常ノ儘	甲 減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト	消燈 減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ 點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光 等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
交通標識	安全地帶標識燈 停留所標識燈 障礙注意燈 其ノ他之ニ類スル燈火	減光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト 一箇所一燈トシ五燭光以下 トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト	消燈 但シ障礙注意燈ハ透視距離 三〇〇米以下ニ減光スルコ ト	乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ 可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合 地表上三〇〇米以上ノ何レ ノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反 射光等一切ノ光ヲ認メ得ザ ルコト
自動車燈	前照燈 側燈 註 案內燈ヲ含ム 尾燈 車輛番號照明燈 停止燈 方向指示器燈 計器燈 方向幕照明燈 空車札照明燈 室內燈 乘合自動車標示燈 其ノ他ノ燈火	減光 合計二燈以下トシ各一燈ハ 燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於 テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケ ル最大照度ヲ三「ルクス」 以下トスルコト	減光且遮光 合計二燈以下トシ各一燈ハ 燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於 テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケ ル最大照度ヲ一〇・七「ルク ス」以下トスルコト	消燈 各一燈トシ透視距離三〇〇 米以下トスルコト	自動車水平ノトキ燈器ヨリ直 接發スル射光ガ一度以上ノ 上空ニ向ハザルコト
普通車輛	自轉車燈 手車燈 人力車燈 荷牛馬車燈 乘合馬車燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	減光 透視距離三〇〇米以下トス ルコト	消燈 但シ乘合自動車室內燈ハ一 燈ニ限リ二燭光以下ニ減光 ヲ得	光源ヨリ直接發スル射光ガ開 口部ニ向ハザルコト
携帯燈類	個人携帯燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	減光且遮光 一燭光以下トスルコト但シ 懷中電燈又ハ之ニ準ズル點 滅裝置ヲ有スルモノニ限リ トキハ遮光セザルコトヲ得	消燈	燈器水平ノトキ其ノ光源ヲ地 表上三〇〇米以上ノ何レノ 點ヨリモ認メ得ザルコト

第四號表

鐵道軌道關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種	類	警	戒	管	制	空	襲	管	制	遮	光	條	件
信 號 合 圖 類	場内信號機燈 出發信號機燈 閉塞信號機燈 防護信號機燈 遠方信號機燈 誘導信號機燈 入換信號機燈 臨時信號機燈 (徐行豫告標燈ヲ含ム) 合圖ニ用フル諸燈火 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
地 上 標 識 類	轉轍器及轍叉等ノ標識燈 列車又ハ車輛ノ停止位置ヲ表示スル諸標燈 徐行許容標燈 其ノ他之ニ類スル燈火 接近表示燈	平常ノ儘	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
車 輛 標 識 類	前部標識燈 註 前部標識燈及トローリ燈ヲ含ム 後部標識燈 自動開閉式扉表示燈	平常ノ儘	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減光 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	減消燈 路認且遮光 分ニ敷設スル鐵道軌道以下、下部道 トスルコト	警戒管制ノ甲及空襲管制ノ場合 合 警戒管制ノ乙ノ場合 空襲管制ノ場合 遮光具ヲ用フルコト	警戒管制ノ甲及空襲管制ノ場合 合 警戒管制ノ乙ノ場合 空襲管制ノ場合 遮光具ヲ用フルコト	警戒管制ノ甲及空襲管制ノ場合 合 警戒管制ノ乙ノ場合 空襲管制ノ場合 遮光具ヲ用フルコト



車輛燈類	車輛特殊火光類	點檢燈類	特殊照明燈類
車内照明燈 行先表示燈 運番表示燈 計器燈 其ノ他之ニ類スル燈火	蒸氣機關車煙突火粉 蒸氣機關車焚口火焰 電氣機關車、電車、無軌條電車、鋼索車等ノ火花類	點檢燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註合圖燈ヲ本類ノ目ニ使 用スル場合ヲ含ム 巡檢燈	各種詰所屋外燈 電車庫屋外燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム 乗降場屋外燈 洗滌臺屋外燈 給炭水屋外燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム
隱蔽 減光且遮光 (イ)室ノ廣サ三平方米ニ付一燭光以内、一燈五〇燭光以下トスルコト (ロ)室ノ廣サ三平方米ニ付一燭光以内、一燈一〇燭光以下トスルコト	平常ノ儘 但シ發光量ノ減少ニ努ムルコト 極力防止ニ努ムルコト	平常ノ儘 減光且遮光 作業面一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈五〇燭光以下トスルコト	減光且遮光 地表面一〇〇平方米ニ付一燭光以下トスルコト 減光且遮光 地表面一〇〇平方米ニ付三燭光以下トスルコト
隱蔽 減光且遮光 (イ)室ノ廣サ三平方米ニ付一燭光以内、一燈二燭光以下トスルコト (ロ)室ノ廣サ三平方米ニ付一燭光以内、一燈一燭光以下トスルコト	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト 發光量及發光時間ノ減少ニ努ムルコト 極力防止ニ努ムルコト	減光且遮光 一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一ルクス以下トスルコト 減光且遮光 二米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一ルクス以下トスルコト	減光且遮光 一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一ルクス以下トスルコト 減光且遮光 二米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一ルクス以下トスルコト
減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト 發光量及發光時間ノ減少ニ努ムルコト	極力防止ニ努ムルコト	減光且遮光 一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一ルクス以下トスルコト	減光且遮光 一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一ルクス以下トスルコト
(イ)ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト (ロ)ノ場合 開口部ニ指定スルモノニ限リ欄間ヨリ漏光セザルコト其ノ他ハ(イ)ニ同ジ	上方全部及側方開放部上部ノ三分ノ二以上ヲ蔽フコト	燈器水平ノトキ其ノ光線ヲ地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ認メ得ザルコト	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト



地下ニ敷 設シタル 鐵道軌道 及隨道 燈類	踏切燈類					
	踏切照明燈	踏切表示燈 踏切注意標 照燈	踏切警報器燈	出札口屋外燈 改札口屋外燈 註側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ 含ム	屋外各種表示燈、誘導燈 註側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ 含ム	屋内各種表示燈
地下ニ敷設シタル鐵道軌道内 燈、隨道内照明燈其ノ他ニシ テ地表ニ放光スル燈火	減光且遮光 八燭光以下トスルコト	減光且遮光 踏切道面一〇〇平方メートル付 八燭光以下トスルコト	減光且遮光 五燭光以下トスルコト	平常ノ儘	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタ ルモノハ透視距離五〇〇米 以下ニ減光シテ殘置スルコ トヲ得	平常ノ儘
消燈 但シ必要ニ應ジ透視距離五 〇米以下ニ減光シテ殘置ス ルコトヲ得	消燈 但シ必要ニ應ジ踏切表示燈 踏切注意標照燈ニ代用ス ルモノハ該燈類ニ關スル制 限内ニ於テ殘置スルコトヲ 得	消燈 但シ必要ニ應ジ踏切表示燈 踏切注意標照燈ニ代用ス ルモノハ該燈類ニ關スル制 限内ニ於テ殘置スルコトヲ 得	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタ ルモノハ透視距離三〇〇米 以下ニ減光シテ殘置スルコ トヲ得	減光 透視距離三〇〇米以下トス ルコト
消燈 但シ必要ニ應ジ透視距離五 〇米以下ニ減光シテ殘置ス ルコトヲ得	消燈 但シ必要ニ應ジ踏切表示燈 踏切注意標照燈ニ代用ス ルモノハ該燈類ニ關スル制 限内ニ於テ殘置スルコトヲ 得	消燈 但シ必要ニ應ジ踏切表示燈 踏切注意標照燈ニ代用ス ルモノハ該燈類ニ關スル制 限内ニ於テ殘置スルコトヲ 得	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トス ルコト	消燈	消燈 但シ誘導燈ニ限り透視距離 三〇〇米以下ニ減光シテ殘 置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈ニ限り透視距離 三〇〇米以下トスルコトヲ 得
光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端 ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ 向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ 角ヲナスコト	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端 ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ 向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ 角ヲナスコト	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端 ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ 向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ 角ヲナスコト	光源ヨリ直接發スル射光可 及的上空ニ向ハザルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ 點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光 等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	光源下端ヨリ遮光具ノ下端ニ 引キタル線ガ光源ノ下方ニ 向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ 角ヲナスコト	光源下端ヨリ遮光具ノ下端ニ 引キタル線ガ光源ノ下方ニ 向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ 角ヲナスコト

第五號表

船舶關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種 類	警 戒		管 制	空 襲 管 制	遮 光 條 件
	乙	甲			
航路關係 燈類	航路標識燈 航路標識燈ニ類スル燈火	別ニ指示スル所ニ依ル			乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ 可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合 地上三〇〇米ノ以上ノ何 レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ 反射光等一切ノ光ヲ認メ得 ザルコト
橋梁表示燈	平常ノ儘	減光且遮光 確認距離一、〇〇〇米以下 トスルコト	減光且遮光 確認距離一、〇〇〇米以下ト スルコト	消燈 隱蔽	
船舶燈類	海上衝突豫防法ニ規定スル船 燈 註 湖沼ニ於ケル船舶ノ船 燈ヲ含ム	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル 最少限度ノ光力トシ且遮光ス ルコト 但シ増掲燈ハ直ニ點出シ得 ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安 上必要ナルトキニ限り一時 點出スルコト	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル 最少限度ノ光力トシ且遮光ス ルコト 但シ檣燈、増掲燈及埠頭繫 留船ノ船燈ハ直ニ點出シ得 ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安 上必要ナルトキニ限り一時 點出スルコト 船燈ハ確認距離五〇〇米以 下ニ減光且遮光スルコト	消燈 隱蔽 但シ直ニ點出シ得ル準備ヲ 爲シ保安上必要ナルトキニ 限り一時點出スルコト	確認距離ノ所要ヲ充足スルヲ 限度トシテ上空ニ對シ遮光ス ルコト
船舶照明 燈類	船室内照明燈 一般船室外照明燈 起重機ヲ用フル荷役用船室外 照明燈 探照燈、安全燈其ノ他ノ火光 註 艇ノ焚火等ヲ含ム	消燈 隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付一〇 燭光以內、一燈五〇燭光以 下トスルコト 減光且遮光 甲板面一〇〇平方米ニ付三 燭光以內、一燈一六燭光以 下トスルコト 減光且遮光 一箇所三燈以下トシ合計五 〇燭光以下トスルコト 消燈 但シ船體又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限り使用スルコトヲ得	消燈 隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付一〇 燭光以內、一燈二燭光以 下トスルコト 消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置 ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受 ケ被照面ニ於ケル最大照度受 ヲ〇・二ニルックス以下ニ減 光シ且遮光シテ殘置スルコ トヲ得	隱蔽 消燈	光源ヨリ直接發スル射光ガ開 口部ニ向ハザルコト 光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端 ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ 向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ 角ヲナスコト



第六號表

航空關係燈ノ光ノ祕匿ノ程度

種	類	警 戒 管 制			空 襲 管 制	遮 光 條 件
		乙	甲	乙		
航空標識燈類	航空標識燈 獨立障礙物標示燈					
飛行場燈	著陸場照明燈 各種信號燈 風向標示燈 雲高測定燈 障礙標示燈					
航空機燈	左翼燈 右翼燈 尾燈 機首燈 航行燈 著陸燈 照明燈 信號燈 計器燈 其他之類	別ニ指示スル所ニ依ル				

第七號表

火焰其ノ他ノ光ノ祕匿ノ程度

種	類	警 戒 管 制			空 襲 管 制	遮 光 條 件
		乙	甲	乙		
火焰類	熔鑄爐火焰 平爐火焰 電氣爐火焰 轉爐火焰 加熱爐火焰 瓦斯爐火焰 窯業製造爐火焰 硝子製造爐火焰 鉛華爐火焰 炭燒爐火焰 熔接爐火焰 鍛冶及壓延爐火焰 汽罐焚口火焰 煙突火焰 其ノ他之類	消隱蔽 漏光制限 平面ヲ透過スル光束ヲ一 下トスルコト	消隱蔽 漏光制限 平面ヲ透過スル光束ヲ一 下トスルコト	消隱蔽 漏光制限 平面ヲ透過スル光束ヲ一 下トスルコト		
第一種禁制光類	煙火、焚火、野火、篝火、狼火、ボタル山ヨリ發スル光 註 警報ニ使用スルモノヲ除ク	消光	消光	消光		
第二種禁制光類	炭火、マツチ、ライター、煙草等ヨリ發スル光 寫眞撮影用閃光	平常ノ儘	平常ノ儘 但シ炭火ハ透視距離三〇〇 米以下ニ減光スルコト	消隱蔽		

昭和十三年五月

## 防空遞信案内

札幌遞信局

### 目次

- 一、防空通信の種類及取扱範圍
- 二、防空通信の取扱順位
- 三、防空通信を実施する場合
- 四、通話の申込及電報の差出方
- 五、防空市外通話利用區間
- 六、防空通信を利用し得る資格者
- 七、防空關係電話の設置
- 八、防空關係料金

はしがき

一度戦火を交ふるや、敵航空機の來襲に因り生ずる慘禍は實に大なるものがあります。而して之が慘禍を防止し、損害を能ふ限り輕減せんとするには國を擧げて其の防衛に協力參加しなければならないことは近代戰の經驗が最も雄辯に之を物語つて居ります。

防空の爲には國の全機關を總動員して國土の安全と生命財産の保護とに努めなければならないことは固より當然でありますが、殊に防空實施上電氣通信機關の占むる地位が頗る重要で、防空通信の疏通如何は防空の目的達成上重大な影響を及ぼすものでありますから茲に防空通信に就いて誰もが知つて置かなければならぬ事柄を簡單に申述べて置く事としました。

## 一、防空通信の種類及取扱範圍

防空通信とは防空通信規則に據り警報、情報及指揮連絡報の三種を謂ふので、之に對しては特別の取扱を爲すことになつてゐます。次に此の通信の内容と其の取扱範圍等具体的に示すこととします。

### (一) 警報

警報は防空警報發令官が防空機關及警報發令官所在地の電信又は電話局に對して防空警報の下令を通知する場合及此の下令を電信又は電話局から市町村役場等警報受領者に對して傳達する通話であります。防空警報發令官とは防空實施區域の防衛を擔任する防衛司令官、師團長、要塞司令官、鎮守府司令官、要港部司令官、及之等の指定する者で各區域に依つて一定して居ります。

北部防衛地區としては警報發令官は北部防衛司令官、中部地區防衛隊司令官、津輕要塞司令官、及大湊要港部司令官に限られて居ります。従つて前記發令官以外の者、例へば道廳長官、警察署長及市町村長等は假令警報

傳達の爲の通信でも警報としては請求が出来ない譯であります。

警報がどんな方法で傳達されるかと云へば警報下令の通知を受けた電信又は電話局では直に警報傳達系統に依つて警報發令區域内の電信又は電話局所（稚内無線以外の電信取扱所並に一、二等及特定三等局所在地の市町村内に在る電報配達事務を取扱はざる三等局は傳達を爲さず）に殆ど一齋に之を傳達し、各電信又は電話局所では更に時を移さず之を警報受領者に傳達するのであります。

警報受領者となるには豫め警報の傳達を受け様とする電信又は電話局所（警報の取扱を爲す局所に限りません）にその旨申出でて置くことになつて居りますが電信又は電話局所では事務の都合上之に應じ得ないことがあります。警報受領者への警報の傳達は加入電話に依るのでありますが、電話のない局では警報受領者が電信又は電話局所の窓口に来て其の通報を受けることになつてゐます。

## （二） 情報

情報は防空監視の事務に従事する者即ち防空監視哨又は防空監視隊本部等が航空機を發見した場合其の發見哨所名、發見位置、發見時刻、進行方向、機種及機數等を上級防空機關に通報する爲に請求する通信であります。

例へば監視哨から監視隊本部、或は監視隊本部から地區防衛隊司令部又は防衛司令部等へは情報の請求が來ますが、監視哨相互間、監視隊本部相互間の如く同等の機關相互間、又は監視隊本部から監視哨、或は防衛司令部から監視隊本部への如く上級機關から下級機關に對しては假令航空機の動靜に關する通信でも情報としての請求は出来ないであります。

## （三） 指揮連絡報



指揮連絡報は防空の爲にする用兵作戰、燈火管制、監視、消防、防毒、避難又は救護に關する防空機關の指揮及之が指揮に對する措置報告、又は特に防空實施上緊急を要する戰況や被害狀況及氣象を通報する内容の通信であります。

指揮連絡報の發受者は其の通信内容に依つて自から制限せらるゝ譯で即ち用兵作戰、燈火管制、監視、消防、防毒、避難又は救護に關する指揮通信は上級機關から下級機關に對するものに限り、又其の指揮に對する措置報告に關するものは其の指揮を爲した上級機關に對する返信でなければなりません。又防空實施上緊急を要する戰況被害狀況、氣象を通報するものも防空機關相互間であれば請求することが出来るのであります。

## 二、防空通信の取扱順位

防空通信は性質上分秒を爭ふものであり又其取扱は最も迅速を要しますので一般通信に與へる影響をも考慮して其の取扱順位を次の通り一定したのであります。

### (一) 警報

一切の通話に優先する事となる結果、豫約通話、定時通話、或は至急通話等に先んずるのは勿論、情報や指揮連絡報にも優先するのであります。又其の電話なり回線なりが他と通話中でありますと警報以外の通話であればそれ等を一切中斷して接續することになってゐます。

### (二) 情報



警報に次いで優先取扱をすることになってゐます。従つて豫約通話、定時通話、至急通話或は指揮連絡法にも優先し又他と通話中の場合には警報、情報以外の通話ならば總て中斷して之を接續するのであります。

### (三) 指揮通信報

之は至急通話と同順位に取扱ふのであります。従つて關係電話なり或は回線が他と通話中であれば中斷が出來ないのであります。

以上の通信は電信に依る場合も電話に依る場合と同様一般の電報に優先して取扱ふことになってゐます。

### 三、防空通信を実施する場合

防空通信は戰時又は事變の際に實施せられるのであります。が本道としては大体に於て北部防衛統制管區内に防空令か若は要塞戰備令のあつた場合に實施せられることとなります。又防空訓練所謂防空演習の際にも實施せられる場合がありますが此の場合は遞信大臣が防空訓練にも防空通信を實施する旨を告示するのであります。防空訓練の場合には防空通信の爲に一般通話を中斷することは出來ないのであります。又監視哨に設置する加入電話の設備所要の費用も免除せられないことになってゐます。

### 四、通話の申込及電報の差出方

防空に關する通話は市内通話の場合は總て之を取扱ひますが、市外通話の場合は或一定の區間に限り取扱ふのであります。即ち防空に關する市外通話の場合は其の通話區間（後述）と通話者とが特定せられてゐるので

あります。

## (二) 通話の申込方

### イ、警報

警報の市外通話を申込むには「警報何局何番」と相手局名の頭に「警報」と冠稱するのであります。例へば  
警備局二五〇番加入者へ警報通話を申込むには「警報警備局二五〇番」と呼稱して申込まれるが如きであります。  
市内通話を申込むには「警報何番」と云ふ様に相手電話番号の頭に「警報」と冠稱するのであります。例へば「警報二五〇番」と云ふ様に呼稱して申込むのであります。尤も自働式の局では市外通話を申込むのは前と同様でありますが、市内通話を申込むには交換機の設備上特別な接續が困難でありますから普通の場合と同様に相手の番號をダイヤルするのであります。

### ロ、情報

情報通信の申込も警報の場合と同様市外通話ならば「情報何局何番」と云ふ様に相手局名の頭に「情報」と冠稱するのであります。又市内通話の場合も警報の場合と同じく「情報何番」と云ふ様に相手の電話番号の頭に「情報」と冠稱するのであります。又自働式の場合は警報の場合と同様であります。

### ハ、指揮連絡報

此の場合も警報と同様に相手局名又は相手電話番号の頭に夫々「指揮連絡報何局何番」或は「指揮連絡報何番」と云ふ様に稱呼して申込む事になってゐます。」

防空通話を掛けられるときに先方に加入電話が無い場合には呼出の請求を爲すのであります。電話呼出を申込むには防空通信の種類と呼出される者（勿論被呼者は防空機関に限られます）の居所氏名を交換取扱者に告げるのであります。又電話を掛けられる者が加入電話を持って居らない場合には通話券に防空通話の種類と相

手局名や電話番号を記載して電話局所の窓口に差出すことになってゐます。

## (二) 電報の差出方

電報は情報と指揮連絡報に限られ、警報には電報を使用することは出来ないであります。情報でも指揮連絡報でも普通の電報差出と同様に頼信紙に記載し其の餘白には「情報」又は「指揮連絡報」と表示するの外発信者の職氏名を記載して電信取扱局所に差出すのであります。防空電報が着信した場合には其の速達を計る爲に受信人に加入電話がある時は電話で送達するのであります。

## 五、防空市外通話利用區間

防空通信の錯綜を避け其の取扱の敏速を圖る爲、防空市外通話に對しては豫め防空通話の取扱を爲すべき區間、通話者、及電話番号を防空機關と協議して特定してあります。

此の特定した區間及通話者以外には防空市外通話は出来ないことになってゐます。

## 六、防空通信を利用し得る資格者

如何なる者が防空通信を爲し得るかと申しますと防空警報發令官、防空監視の事務に従事する者及その他の者で防空通信規則上の防空機關に限られ、一般公衆は防空通信を爲し得ないのであります。防空機關とはどんなものかと申しますと次の通り定められてあります。

(一) 陸軍關係

陸軍省、參謀本部、防衛司令部、師團司令部、要塞司令部、地區防衛司令部、防空監視隊本部、防空監視哨、防空戦闘部隊

(二) 海軍關係

海軍省、軍令部、鎮守府、要港部、海兵團、航空隊、海軍通信隊、防備隊、防備衛所、望樓、海軍港務部、對空見張所、海軍艦船

(三) 内務省關係

内務省、道府縣廳、警察署（駐在所及派出所を含む）消防署、防空監視隊本部、防空監視哨、防空法第三條に依る防空計畫設定者、市町村役場

(四) その他

官廳、無線電信機を裝置する船舶又は航空機

七、防空關係電話の設置

(一) 加入電話

イ、架設 防空機關に臨時に設置するものは出来るだけ何時でも其の架設に應ずるのでありますが戦争や事變が終了すると直ちに之を取消す事になってゐます。此の電話は公益受理の場合と同様の申請書を電話局か又は工務出張所に差出すのでありますが申請書の餘白に其の電話の開通希望月日を附記して置くと便利であります。

ロ、料金 防空監視哨に設置するものは普通加入區域の内外を問はず設備所要の費用は免除になります。が區域外の工事材料だけは現物を提供することになってゐます。其の他の防空機關に設置するもの

は設備費は免除になります、加入料や電話使用料等は一般の加入電話と同様有料であります。

## (二) 市内専用電話

イ、架設 防空通信専用の爲に防空機關相互間に臨時に設置するものに對しては出来るだけ何時でも架設に應ずる事になってゐます。又電話機を設置する場所の一方のみが防空機關である場合でも同様に應ずる場合もあります。願書は一般の市内専用電話の場合と同様で電話局か又は工務出張所に差出すことになってゐます。又此の電話の開通希望月日を其の願書に附記すると便利であります。

ロ、料金 創設に要する費用は一切免除することになってゐますが維持費は納付することになってゐます。尤も警報傳達か又は情報通信の爲に使用するものは防衛司令部、鎮守府、監視隊本部、地區防衛司令部、又は要塞司令部等と郵便局との間に設置するものに限り創設費も維持料も總て免除する事になってゐます。

## (三) 市外専用電話

防空機關が防空通信の爲に市外電話回線を専用する必要がある場合は遞信局に申請することになってゐます。専用料は専用區間に依つて相違してゐます。

## 八、防空關係料金

通話料と電報料は無料でありますが市内電話度數料及加入料や専用電話の専用料は有料であります。而して市外専用電話料金のみは左の通り特定せられてゐますが其の他の料金は一般の料金と同様であります。

### (一) 終日専用の場合

區 間

専用料日額

一 通話時の普通市外通話料	二五銭迄	二〇通話時の普通通話料相当額
〃	五〇銭迄	四〇通話時の
〃	一圓迄	五〇通話時の
〃	一圓二五銭以上	七〇通話時の
〃		〃

(二) 時間専用の場合

前號に依る日額専用料の八分の一を一時間の料金とす尚一時間未満のものでも一時間分の料金を徴収することになつて居ります。

但し前號日額料金を超ゆるときは日銭料金となります。

---

㊦ オヤコ電球は平時戦時に  
使用出来る電球であります。

---

平時は親球。燈火管制には子球。



東西電球株式會社  
札幌營業所

電話札幌六八五番

札幌市南一條西九丁目十四番地

朝里叢書 第七卷

朝里防護團 第一版第一刷

小林 廣 編

翻刻 小樽・朝里まちづくりの会 朝里遺産部会

小元理男 末永 通 瀧内淳子 守谷明宏

協力 奥山 稔

監修 朝里郷土史資料調査研究所

主宰 小林定典

発行日 (第一版) 平成二十一年一月一日

発行 NPO法人 小樽・朝里まちづくりの会

事務局 小樽市新光四丁目一番十六号

北海道新聞中販売所内

朝里遺産部会連絡先 [suenaga@asari.cc](mailto:suenaga@asari.cc)